

第1章	安心して子どもを産み、育てることのできるまち ……………	56
第2章	持続可能な社会の創り手を育成する学校教育が充実しているまち ……	66
第3章	専門的な教育の機会が確保され、高等教育機関等との連携や交流が進むまち …	76
第4章	未来に向けて、ともに学び、地域で行動する人がはぐくまれるまち …	80
第5章	スポーツを通して生きがいに満ち、活気にあふれるまち……………	88
第6章	文化芸術に親しみ、心豊かに生活できるまち……………	94
第7章	一人ひとりの人権が尊重され、男女が生き生きと暮らすまち……………	100

# 評価・検証シート【施策】

令和 2 年度

【所管部局】保健福祉部

施策名	(第1編第1章) 安心して子どもを産み、育てることのできるまち
-----	------------------------------------

## 1. 計画(Plan)

意図(どういう状態になることを狙っているのか)
市民が安心して子どもを産むことができ、子育てに幸せや楽しさを実感して暮らせるまちを目指します。

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
子育てをしやすいと思 っている市民の割合	目標値 (%)	65.0	65.0	65.0	65.0	現状値を踏まえ65.0%以上を 目指す。 [現状値:55.3%(H30年度実 績)]
	実績値 (%)	53.5				
	達成度 (%)	82.3				

## 2. 実行(Do) → 構成事業の実施による

## 3. 検証・評価と今後の方向性(Check & Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析(①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)
<ul style="list-style-type: none"> <li>本施策の成果指標については、前年度の49.8%より3.7ポイントアップの53.5%となり、目標の達成としては82.3%となりました。</li> <li>R2年度は、新型コロナウイルスの感染防止策を行いながら事業を実施しましたが、中には、実施ができなかった事業や、やむを得ず内容を縮小し実施した事業もあります。</li> <li>子育て世代包括支援センター(はぐはぐ<sup>***むち</sup>smufa)事業では、妊娠期から子育て期にわたり、関係機関と連携しながら、専門職が子育て家庭に寄り添った相談・支援を行うことで、切れ目ない支援を推進しました。特にコロナ禍であり、孤立感や育児不安等も大きいことから、感染拡大防止に努めながら、積極的な支援を行いました。</li> <li>R2年4月からは妊婦歯科健康診査事業に取り組み、妊婦自身とこれから生まれてくる子どもの歯と口の健康づくりを推進しました。</li> <li>学童保育所(クラブ)については、新型コロナウイルスの影響もあり、利用希望総数は減少しているものの、複数の校区で待機児童が発生しています。待機児童の数は前年度と比較し減少しましたが、未だ解消には至っていません。</li> <li>保育所等の施設整備補助事業においては、対象事業者を認定こども園まで拡大し、施設整備の補助を行いました。</li> </ul>
(2) 今後の方向性((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた方針を示す)
<ul style="list-style-type: none"> <li>子育ての負担感・不安感の軽減や子育て家庭の経済的負担の軽減、仕事と家庭の両立支援などに引き続き取り組み、安心して子どもを産み、育てられる環境づくりを進めます。</li> <li>子育て支援の取組みについて、様々な機会や手段を活用し周知を行うとともに、関係機関と連携しながら、個々の状況に応じた相談・支援を行います。</li> <li>学童保育所(クラブ)の待機児童の解消に向け、R2年度に策定した「学童保育所(クラブ)待機児童ゼロに向けたパッケージ」に基づき取組みを進めます。</li> <li>少子化対策の一環、また経済的負担の軽減として、特定不妊治療に係る治療費の助成に取り組みます。</li> <li>子育てしやすい環境の充実に向け、今後も社会情勢の変化や子育て世帯のニーズに対応した事業等を行うとともに、様々な子育て支援の取組みについてのわかりやすい情報発信を行います。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(保健福祉部長 桑原 正彦)</p>

#### 4. 施策推進の視点と各構成事業

No.	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	R2 目標 R2 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点 1] 結婚や子育ての希望実現に向けた支援							
1	おおむた縁結び支援事業	子ども育成課	イベント参加者数	人	180 0	遅れ	改善
2	若者のライフデザイン形成支援事業	子ども育成課	セミナー等の参加者数	人	100 0	遅れ	改善
[視点 2] 母と子どもの健康支援							
3	【重点】子育て世代包括支援センター事業	子ども家庭課	ハイリスク妊婦への支援プラン作成割合	%	100 100	順調	継続
4	妊婦健康診査事業	子ども家庭課	健康診査平均受診回数	回	12.4 12.5	順調	継続
5	【重点】妊婦歯科健康診査事業	子ども家庭課	歯科健康診査受診率	%	68.0 79.2	順調	継続
6	【重点】子ども医療費助成事業	子ども家庭課	子ども医療費受給1人当たりの平均助成額	円	24,000 19,146	順調	継続
[視点 3] 地域における多様な子育て支援							
7	地域子育て支援拠点事業	子ども育成課	つどいの広場登録数	組	750 378	やや遅れ	改善
8	ファミリー・サポート・センター事業	子ども育成課	利用希望者が利用できた割合	%	100 99.3	順調	継続
9	子育て短期支援事業	子ども育成課	利用申請中利用できた人の割合	%	100 0	遅れ	改善
10	保育所、幼稚園等における保護者負担軽減	子ども育成課	軽減の実施	-	実施 実施	順調	継続
[視点 4] 仕事と家庭が両立できる環境づくり							
11	放課後児童健全育成事業	子ども育成課	入所できた児童の割合	%	100 98.1	やや遅れ	改善
12	【重点】病児・病後児保育事業	子ども育成課	新規登録者数	人	120 104	順調	継続
13	保育所等施設整備費補助事業	子ども育成課	整備数	園	1 1	順調	継続
14	休日保育事業	子ども育成課	利用希望者の受入率	%	100 100	順調	継続
15	教育・保育施設管理及び運営事業	子ども育成課	入所できた児童の割合	%	100 100	順調	継続
16	保育士等人材バンク事業	子ども育成課	就職決定者数	人	10 4	やや遅れ	改善
[視点 5] 様々な家庭への子育て支援の充実							
17	児童家庭相談事業	子ども家庭課	相談に対する延べ対応件数	回	8,235 6,895	順調	継続
18	(再掲)子育て世代包括支援センター事業	子ども家庭課	ハイリスク妊婦への支援プラン作成割合	%	100 100	順調	継続

# 評価・検証シート【事業】

## 5. 構成事業

【決算額】 政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

1	事業名	おおむた縁結び支援事業	決算額	
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R 元年度から官民連携で取り組み始めた「love おおむた」プロジェクトにより、民間団体が実施する婚活イベント及び福岡県と市の共催のセミナーは開催を予定していましたが、新型コロナの感染拡大防止のため、R2 年度は全て中止しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 縁結び支援事業は、独身者が結婚したいという思いの醸成を図るとともに、希望の結婚像・ライフスタイルにあった相手を探せるようサポートや出会いの場の創出を行うことが目的となっています。このため、本市や民間団体等が取り組む事業に関心を持ち、参加していただくことが課題です。</li> <li>・ 民間団体等との連携を充実させるための組織作りが必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの取り組みを検証し、婚活イベント等の再検討を行います。</li> <li>・ 柳川市及びみやま市とも連携し、情報の共有や情報発信を行い、広く参加者が集まるよう取り組みます。</li> </ul>		

2	事業名	若者のライフデザイン形成支援事業	決算額	
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 婚活イベントの開催に併せて、参加者を対象に作法や会話術等に関するセミナーやこれからのライフステージを踏まえての結婚・出産・子育て等に関するライフデザインセミナーを開催する予定でしたが、新型コロナの感染拡大防止のため、R2 年度は全て中止しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若い世代が、自ら希望する結婚・出産・子育て等について、自身のライフデザインを描くことに関心を持つことが必要です。それには、意識の醸成を行うためのセミナー等の開催やそのセミナーに参加していただくことが課題です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまで実施している取組みと併せて、意識の醸成を図るためのセミナー等の開催について、他部局とも連携しながら、取り組みます。</li> </ul>		

3	事業名	【重点】子育て世代包括支援センター事業<6. 重点事業 参照>		
---	-----	---------------------------------	--	--

4	事業名	妊婦健康診査事業	決算額	62,013
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受診することが望ましいとされる妊婦一人あたり 14 回分の妊婦健康診査（福岡県内統一の検査項目）の公費負担を行いました。成果指標である平均受診回数は、委託料及び補助金の支払件数を当該年度の妊娠届出者数で除して算出しています。</li> <li>・ 特に支援を必要とする妊婦に対しては、妊婦と胎児の健康管理を行うため、継続した状況把握と健康診査結果を活用した電話や訪問による保健指導や助言等を行い、安心して出産できるよう支援しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己管理意識を高め、妊娠の週数に応じた必要な健康診査を受診できるように、母子健康手帳交付時に、対象者に応じた保健指導を行う必要があります。</li> <li>・ 健康診査の受診中断等を把握し、必要な支援を行うなどの介入が必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続して、健康診査 14 回分の公費負担を行います。</li> <li>・ 医療機関等の関係機関との連携を密にし、対象者に応じた支援を行い、妊婦と胎児の健康管理を行います。</li> </ul>		

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

5	事業名	【重点】妊婦歯科健康診査事業<<6. 重点事業 参照>>
---	-----	------------------------------

6	事業名	【重点】子ども医療費助成事業<<6. 重点事業 参照>>
---	-----	------------------------------

7	事業名	地域子育て支援拠点事業	決算額	7,800
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人に委託し、適切な運営により円滑に事業が実施できました。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開所した日数が前年度比 85%であるとともに、利用者制限も行っていたため、登録者数は前年度比 58%にとどまりました。</li> <li>・乳幼児を持つ転入者に対して、検診案内時につどいの広場への案内を行いました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳未満の児童を対象としているため、利用者の安全に配慮するとともに、講座等の充実が必要です。</li> <li>・子育て世帯の孤立化を防ぐため、子育て相談等の支援の提供が引き続き必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の安全に配慮した集いの場を提供します。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止のために臨時休所しているときも、相談業務は電話で対応し、孤立化を防ぎます。</li> <li>・毎年度実施している利用者アンケート結果等のニーズを踏まえ、講座内容に変化をもたせるなど、魅力ある講座を実施します。</li> </ul>		

8	事業名	ファミリー・サポート・センター事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人に委託して、適切な運営により事故もなく安全な事業の実施ができました。</li> <li>・R2 年度の利用活動件数は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校等により、前年度より増となっています。(R2 年度 1,071 件、R 元年度 1,044 件、H30 年度 1,076 件)</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童(特に乳児)を預かることから、協力会員(児童の預かりを行う会員)のさらなる資質の向上が課題です。</li> <li>・協力会員の増が引き続き課題です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力会員のさらなる資質の向上のため、定期的な研修を実施します。</li> <li>・さまざまな機会を捉え事業の周知に努めることにより、さらなる会員の増加を目指します。</li> </ul>		

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

9	事業名	子育て短期支援事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託している社会福祉法人では事業を実施できる体制を整えていましたが、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言を受けての事業休止、その後の施設（乳児院・児童福祉施設）での感染防止を目的とした事業休止などにより十分に事業を実施できませんでした。</li> <li>・このような状況により、R2年度の利用状況は登録数5組、利用者数（申請者数）0人です。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・預かりの場が乳児院・児童福祉施設内であることから、新型コロナウイルスの施設内感染防止のため徹底した防止策を図る必要があるため、コロナ禍にあっては十分な事業実施が難しい状況です。</li> </ul>		
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍にあっても、十分に事業を実施できるよう委託事業者と協議を続けます。</li> <li>・宿泊を伴う一定期間の児童の預かりを行うことから、児童の安全を担保できる施設の要件を踏まえ、現在の委託事業者に加え新たな委託事業者の確保について検討を行います。</li> </ul>		

10	事業名	保育所、幼稚園等における保護者負担軽減	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市独自の保育料軽減を継続して実施しています。</li> <li>・低所得の多子世帯やひとり親世帯等の保護者負担の軽減を実施しています。</li> <li>・国施策の幼児教育・保育の無償化に伴う業務を適切に実施しています。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育ての不安や負担の軽減につながる経済的負担の軽減の継続が求められています。</li> </ul>		
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援充実に向けて、教育・保育の維持・向上に取り組みます。</li> <li>・働きながら子育てできる環境づくりのため、施設の整備や定員増等、保育ニーズに応えることができるよう、取り組みます。</li> <li>・今後も引き続き、市独自の保育料軽減に取り組みます。</li> </ul>		

11	事業名	放課後児童健全育成事業	決算額	10,771
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学童保育所（クラブ）については、民間放課後児童クラブに対する補助の実施等による待機児童対策に取り組んだ結果、R2年4月1日時点の待機児童数は44名となり、前年度より1名減少しました。</li> <li>・包括的な待機児童対策を進めるために「学童保育所（クラブ）待機児童ゼロに向けたパッケージ」を策定しました。</li> <li>・新型コロナ対策として、3密の回避や利用自粛要請等の対策を行いました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・待機児童数は減少したものの未だ解消までには至らず、利用希望者全員の利用ができていません。</li> <li>・「学童保育所（クラブ）待機児童ゼロに向けたパッケージ」の着実な取り組みが必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学童保育所（クラブ）待機児童ゼロに向けたパッケージ」に基づき、学童保育所（クラブ）の支援員の確保、待機児童が生じている校区の状況等を踏まえた待機児童の受け皿の拡大に取り組みます。</li> <li>・取り組みに当たっては、事業者や設置小学校等との十分な協議を行います。</li> </ul>		

12	事業名	【重点】病児・病後児保育事業<<6. 重点事業 参照>>		
----	-----	------------------------------	--	--



【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

13	事業名	保育所等施設整備費補助事業	決算額	236,224
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の安心・安全な環境確保のため、国の交付金等を活用し、認定こども園の施設整備補助を1施設に対し行いました。(2か年事業)</li> <li>・補助対象施設を拡大し、保育所だけでなく、認定こども園も補助対象施設としました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの保育所等の施設整備では、施設の老朽化が進む民間保育所に対して、整備を行ってきました。今後は、老朽化対策に限らず、保育所等の機能強化や待機児童の発生防止対策の視点をさらに充実させるため、施設整備の方針等の整理が必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設整備の方針等の整理を行い、老朽化対策に限らず、保育所等の機能強化や待機児童対策を充実させる観点から、引き続き、教育・保育施設の環境の向上が図られるよう取り組みます。</li> </ul>		

14	事業名	休日保育事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日曜日や祝日等に保護者の仕事等の理由により、家庭での保育が困難な児童に対して天領保育所内で休日保育を行っています。</li> <li>・R2年度においては、新型コロナ感染拡大による影響を受け、保護者が仕事等を休業したことから、家庭での保育が可能となり、休日保育の利用人数が減少しました。</li> <li>・利用希望者は100%受け入れることができました。利用登録者数は30人、延べ利用者数は174人でした。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内全域の子どもが対象となるため、新型コロナの感染状況を確認しつつ、感染予防策を講じながら、休日保育を実施していく必要があります。</li> <li>・安心して児童を預けられる環境の充実のため、安定した保育体制の維持が必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの感染状況を確認しつつ情報発信を行い、サービスが必要な家庭への支援を進めます。</li> <li>・希望者が利用したいときに必ず利用できるよう、安定した保育士の確保に取り組みます。</li> </ul>		

15	事業名	教育・保育施設管理及び運営事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立保育所を含む市内22園で、安心、安全な保育の提供及び継続的な施設の運営、管理を行いました。</li> <li>・待機児童は発生しませんでした。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所等との連携・調整を密に行うことが必要です。</li> <li>・全国的な保育士不足の状況の中、十分な保育の質・量を提供するためには、保育士の人材確保が重要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心、安全な保育環境の確保のため、運営等の支援を継続して実施します。</li> <li>・保育士の確保のため、保育士等人材バンク事業の充実を図ります。</li> </ul>		

16	事業名	保育士等人材バンク事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士の確保を図るため、H31年4月から実施している事業です。</li> <li>・コロナ禍により、保育士の仕事を体験する、保育士体験等のイベントなどの周知活動が十分でなく、登録者数は伸びませんでした。</li> <li>・R2年度は、この事業により市内の保育所等に4名就職することができました。(登録者12名 求人施設17施設)</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録者を増やすために、潜在的保育士等の掘り起しを行うことが課題です。</li> <li>・求人施設の登録数を増やすことも必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録方法を見直し、来庁せずに登録できるような仕組みづくりなど、利便性の向上を考えます。</li> <li>・昨年度より、広報活動の回数を増やし、さらなる周知に取り組みます。</li> </ul>		

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…一

	事業名	児童家庭相談事業	決算額	—
17	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民等からの子育てに関する相談や児童虐待の通告等に対し、内容や状況に応じた適切な対応を行っています。相談内容は複雑化・深刻化・長期化しており、R2年度の相談件数は828件、相談に対する延べ対応件数は6,895件でした。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止のための小・中・養護学校の臨時休業期間中、関係機関と協力して支援対象児童等の見守り及び昼食支援を行いました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談に対応する専門職の確保と児童家庭相談システムを活用した効果的・効率的な業務運営、関係機関との更なる連携により、相談支援の充実を図る必要があります。</li> <li>・児童虐待に関する相談・通告窓口などについて、広く周知していく必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談等に対応する専門職の安定した確保を図ります。</li> <li>・児童家庭相談システムによる迅速な状況把握など、効果・効率的な業務運営を行うとともに、子ども支援ネットワークを活用して関係機関と連携し、相談・支援の充実を図ります。</li> <li>・ホームページや広報おおむた等を活用し、相談・通告窓口について周知するとともに、児童虐待防止推進月間において啓発活動を行います。</li> </ul>		
18	事業名	子育て世代包括支援センター事業【再掲：同編同章 視点2参照】		



# 評価・検証シート【事業】

## 6. 重点事業

事業名		子育て世代包括支援センター事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
ハイリスク妊婦への支援プラン作成割合	目標値(%)	100	100	100	100	全てのハイリスク妊婦に対し、支援プランを作成し、支援していくことを目指します。
	実績値(%)	100				
	達成度(%)	100				
<b>事業の実施状況</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期から子育て期にわたり、専門職が個々の状況に合わせ各種の相談に応じ支援を行いました。</li> <li>・特に、新型コロナによる影響や、令和2年7月豪雨災害を経験し、子育て困難感も増しているため、ハイリスク者等に対しては、庁内の関係課や他の行政機関、医療機関等と連携し、継続した支援を行いました。</li> <li>・業者が提供する母子健康手帳アプリや広報おおむた等を活用し、妊娠・出産・育児に関する、本市の情報発信を行いました。</li> </ul>						
<b>決算</b>		<b>国</b>	<b>県</b>	<b>起債</b>	<b>その他</b>	<b>一般財源</b>
決算額	21,708 千円					
(次年度への繰越	千円)	6,648	4,667		30	10,363
<b>課題</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の個々の状況に応じた相談・支援を行うために、関係機関との情報共有や連携のためのネットワークを強化する必要があります。</li> </ul>						
<b>今後の方向性（具体策）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診査の結果や関係機関等との連携により、妊産婦・乳幼児の実情を継続的に把握し、個々に応じた情報提供や指導・助言等の支援を行っていきます。</li> </ul>						

事業名		妊婦歯科健康診査事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
歯科健康診査受診率	目標値(%)	68.0	68.0	68.0	68.0	集団での母子健康手帳交付者全員が受診することを目標（H30年度実績）とします。
	実績値(%)	79.2				
	達成度(%)	116.5				
<b>事業の実施状況</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団での母子健康手帳交付時（2回/月）に、歯科医師による歯科健康診査及び歯科衛生士による歯科保健指導を行い、歯と口の健康に対する意識の向上を図りました。</li> <li>・個別での母子健康手帳交付者に対しては、受診券を交付し、受診勧奨を行いました。</li> </ul>						
<b>決算</b>		<b>国</b>	<b>県</b>	<b>起債</b>	<b>その他</b>	<b>一般財源</b>
決算額	1,368 千円					
(次年度への繰越	千円)				500	868
<b>課題</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期は胎児の歯を含む口腔が形成される時期で、将来の子どもの口腔環境作りに大きな影響を与え、妊婦の歯周疾患は早産や低体重児出産のリスクが高いため、健診や保健指導を通して啓発していく必要があります。</li> </ul>						
<b>今後の方向性（具体策）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康への意識の高まりがみられる妊娠期に、歯科健診及び保健指導を行い、歯科保健に対する知識を高め歯科口腔保健の大切さを啓発することにより、妊婦自身だけでなく、これから生まれてくる子どもの歯と口の健康づくりを進めます。</li> </ul>						

事業名		子ども医療費助成事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
子ども医療費受給1人当たりの平均助成額	目標値(円)	24,000	24,000	24,000	24,000	H30年度の助成実績を基に算出した1人当たりの平均助成額を上限に設定しています。
	実績値(円)	19,146				
	達成度(%)	125.4				
<b>事業の実施状況</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生までの入院、通院の助成を継続して行いました（中学生は独自助成）。</li> <li>・医療費増加抑制につながる下記の取組みを行いました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①窓口配布の制度案内チラシや医療証送付時の通知に、「上手な医療機関のかかり方」・「小児救急医療電話相談（＃8000）」の情報を掲載【継続】</li> <li>②3歳及び新1年生の医療証送付時に、「むし歯予防チラシ」を同封【継続】</li> <li>③子育て情報誌「おおむたっ子」に、感染症予防情報を掲載【継続】</li> </ul> </li> </ul>						
<b>決算</b>		<b>国</b>	<b>県</b>	<b>起債</b>	<b>その他</b>	<b>一般財源</b>
決算額	232,206 千円		95,581	29,500	1,622	105,503
(次年度への繰越)						
<b>課題</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も子どもの疾病を予防するための取組みについて考えていく必要があります。</li> </ul>						
<b>今後の方向性（具体策）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民及び関係機関への制度周知を引き続き行いながら、子ども医療費助成対象者へ医療証を発行し、安心して産み育てられる環境を整えます。</li> <li>・制度周知と併せて疾病予防の啓発及び事業等を行うことにより、子どもの健康維持・向上を支援します。</li> </ul>						

事業名		病児・病後児保育事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
新規登録者数	目標値(人)	120	120	120	120	令和2年7月までの実績を基に算出した新規登録者数を目標とします。
	実績値(人)	104				
	達成度(%)	86.7				
<b>事業の実施状況</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の学校法人に委託して病児・病後児保育事業を実施しており、ホームページや事業者独自のホームページ、市内全幼稚園、学童保育所等への年4回の掲示物の配布等により事業の周知を行っており、コロナ禍にあっても一定の登録者数の確保につながっていると考えます。</li> <li>・医療機関との連携等により、コロナ禍にあっても事業を休止せず、また事故もなく安全な事業の実施ができました。</li> <li>・月当たりの利用者数は平均約13人となっており、希望する者はすべて利用ができました。</li> </ul>						
<b>決算</b>		<b>国</b>	<b>県</b>	<b>起債</b>	<b>その他</b>	<b>一般財源</b>
決算額	8,446 千円		2,751		241	2,155
(次年度への繰越)						
<b>課題</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気の児童を預かることから、感染症対策を含む児童の安全確保が課題です。</li> </ul>						
<b>今後の方向性（具体策）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者へ指導医、協力医療機関との引き続きの連携を促します。</li> <li>・コロナ禍の中、受入時の体調確認をさらに徹底します。</li> <li>・これまでの周知活動を継続するとともに、さらなる周知促進について検討します。</li> </ul>						

# 評価・検証シート【施策】

令和 2 年度

【所管部局】教育委員会

施策名	(第1編第2章) 持続可能な社会の創り手を育成する学校教育が充実しているまち
-----	---

## 1. 計画(Plan)

意図(どういう状態になることを狙っているのか)
児童生徒が持続可能な社会の創り手となれるよう、夢や目標に向かって意欲的に学ぶ力を育成するとともに、自ら課題を発見し、多様な人々と協働しながら主体的に解決する力を育成します。

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
将来に向けて意欲を持って取り組もうとする 中学3年生の割合	目標値 (%)	80.0	80.0	80.0	80.0	現状値を踏まえ80.0%以上を目指す。 [現状値：78.6%(H30年度実績)]
	実績値 (%)	82.6				
	達成度 (%)	103.3				

## 2. 実行(Do)→ 構成事業の実施による

### 3. 検証・評価と今後の方向性(Check & Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析(①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)
<ul style="list-style-type: none"> <li>本施策の成果指標のR2年度の実績値は82.6%となり、目標を達成することができました。その要因として、次のようなことが考えられます。</li> <li>児童生徒は、自己の能力を発揮できたときや自己の目標の達成感を味わったとき、新たな目標を持ち、主体的に行動します。本市は、国連が定めたSDGs(持続可能な開発目標)の達成に資することを目指し、持続可能な社会の創り手をはぐくむ教育であるESDの深化を図ってきました。各学校は、学校の特色や児童生徒の発達段階に応じ、ESDで重視する「自ら考え行動する」児童生徒の育成を目指した教育活動を展開しました。教育委員会は、各学校の支援を行うとともに、ESDに関する様々な全市的的事业に取り組みました。その結果、児童生徒は、目標を持つことの大切さについて理解するとともに、目標に向けて頑張ったことによる達成感を味わうことができたと考えられます。</li> <li>これと併せ、児童生徒に「確かな学力(知)」、「豊かな心(徳)」、「健やかな体(体)」をバランスよくはぐくむとともに、その個性や能力を伸ばすため、各学校は、児童生徒の興味・関心や能力に応じた教育活動を展開し、教育委員会はその支援を行うとともに、様々な全市的的事业に取り組みました。その結果、児童生徒それぞれが自己のよさを様々な場面で発揮でき、達成感を味わうことができたと考えられます。</li> </ul>
(2) 今後の方向性((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた方針を示す)
<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの継続的な取組みの結果がR2年度目標の達成につながったと考えられることから、今後も、ESDをはじめ、郷土愛をはぐくむ学習や英語教育など、本市の特色ある教育の充実を図るとともに、知・徳・体のバランスが取れた教育を推進することにより、児童生徒が達成感を味わい、新たな目標と将来に向けた意欲を持てるようにします。</li> <li>また、各学校が特色ある教育活動を展開することによって、児童生徒一人ひとりが自己のよさを発揮し、目標を持って主体的に学ぶことができるよう支援していきます。</li> <li>本施策を構成する事業の重点化を図り、効果的・効率的に取り組みます。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(教育委員会事務局長 中村 珠美)</p>

#### 4. 施策推進の視点と各構成事業

No.	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	R2目標 R2実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点1] 未来を創る児童生徒を育成する特色ある教育の展開							
1	【重点】未来を創るESD推進事業	指導室	ESDを通じた地域や世界への貢献の意識	%	90.0 91.0	順調	継続
2	人と未来と世界をつなぐ海洋教育推進事業	指導室	三池港や有明海に対する興味・関心	%	80.0 88.2	順調	継続
3	【重点】英語教育のまち・OMUTA推進事業	指導室	英語の授業の理解度	%	85.0 88.0	順調	継続
4	おおむた郷土愛育成事業	指導室	郷土大牟田に対する興味・関心	%	90.0 92.8	順調	継続
5	小中一貫校推進事業	学校教育課	児童生徒像と体制に関する研究・協議回数	回	4 5	順調	継続
6	公立中学校夜間学級推進事業	学校教育課	教職員研修と地域説明会の回数	回	2 2	順調	継続
[視点2] 子どもの個性や能力を伸ばし、可能性を広げる							
7	少人数学級編制・少人数授業推進事業	学校教育課	少人数学級編制による学習意欲の向上	%	90.0 97.0	順調	継続
8	【重点】「学びに向かう力」育成推進事業	指導室	主体的に学習に取り組む態度	%	84.0 84.8	順調	継続
9	【重点】「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業	指導室	友だちを大切にする意識	-	3.7 3.72	順調	継続
10	【重点】子ども大牟田体力検定推進事業	指導室	運動を大切に思う意識	%	63.0 64.8	順調	継続
11	学校教育における食育推進事業	学務課、指導室	朝食の必要性に対する児童生徒の理解度	%	90.0 91.8	順調	継続
12	特別支援教育支援員活用事業	学校教育課	特別支援教育支援員の配置効果	%	100 100	順調	継続
[視点3] 学校教育環境の充実							
13	学校再編整備推進事業	学校再編推進室、学務課	学校再編に対する地域の理解と協力（R5で評価）	再編協議会数	- -	-	-
14	学校施設長寿命化改修事業	学務課	長寿命化を完了した学校の割合（当該年度分）	%	100 100	順調	継続
[視点4] 安心して学べ、地域とともにある学校づくり							
15	（再掲）「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業	指導室	友だちを大切にする意識	-	3.7 3.72	順調	継続
16	スクールソーシャルワーカー活用事業	指導室	SSWが関わることで解決又は好転した事案の割合	%	78.0 78.2	順調	継続
17	就学援助事業	学務課	保護者への就学援助事業を周知した割合（申請書等配布率）	%	100 100	順調	継続

# 評価・検証シート【事業】

## 5. 構成事業

【決算額】 政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

1	事業名	【重点】未来を創るESD推進事業<<6. 重点事業 参照>>
---	-----	--------------------------------

2	事業名	人と未来と世界をつなぐ海洋教育推進事業	決算額	300
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京大学と連携し、本市の海洋教育推進校と九州・沖縄の海洋教育推進拠点の研究の交流を支援しました。</li> <li>・市推進校の公開授業に指導主事を派遣したり、学習交流会に講師を招いたりする等の支援を行いました。</li> <li>・市推進校の公開授業や研究成果の発信・交流の支援や、推進校と九州・沖縄の海洋教育推進拠点の学校の児童生徒との学習成果の発表と交流「海洋教育こどもサミット 2021 in おおむた」を開催しました。</li> <li>・市推進校が行う校外学習にゲストティーチャーを紹介する等、関係機関との連携を支援しました。</li> <li>・「ユネスコスクール・SDGs/ESD 実践交流会 in おおむた」に海洋教育の分科会を設定し交流しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市推進校の実践を市内の各学校へ発信するとともに、市外の海洋教育推進校との実践の交流を通して、更なる広がりや深まりのある海洋教育を推進する必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市推進校が実施する学習交流会等の研修会や「海洋教育こどもサミット」等への市内学校の参加、ESD 研修会での実践発表、実践事例集の配布等を通して、海洋教育についての理解の促進を図ります。</li> </ul>		

3	事業名	【重点】英語教育のまち・OMUTA 推進事業<<6. 重点事業 参照>>
---	-----	--------------------------------------

4	事業名	おおむた郷土愛育成事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども大牟田検定(入門編・基礎編・上級編)を実施しました。9月に実施した1回目(通算19回目)では、5,702人の児童生徒が基礎編又は上級編を受検しました。1月に実施した2回目(同20回目)では、7,317人の児童生徒が入門編、基礎編又は上級編を受検しました。また、1,745人の市民(高校生を含む)も受検しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が郷土大牟田のことをもっと知りたいと思うとともに、郷土への関心が高まるような取組みを工夫する必要があります。</li> </ul>		
今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、児童生徒の発達段階に応じた検定問題や受検体制等、効果的・効率的な取組み方法を工夫しながら事業を実施し、郷土大牟田を愛し誇りに思うような取組みの充実を図っていきます。</li> </ul>			



【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…一

5	事業名	小中一貫校推進事業	決算額	38
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>各中学校区の小中学校において、小中の9年間を見通した教育活動を推進するため、授業づくりや生徒指導等に係る合同研修会、管理職・担当者ごとの情報交換連絡会、先進校視察（宗像市・鳥栖市）などを実施しました。特に、宮原中学校区においては、先進校から講師を招き教職員対象の研修会を実施し、さらに先進校講師による校区の保護者を対象とした説明会を実施しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮原中学校区4校の教育課程編成及び小中合同の校務分掌、組織づくり等、校区の小中学校間における取組内容の具体化・共有化を図る必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>先進校の教育課程を参考にしながら、宮原中学校区の9年間を見通した教育課程の検討・作成を行います。また、宮原中学校区における地域説明会及び説明チラシ等の配布を予定しています。</li> </ul>		

6	事業名	公立中学校夜間学級推進事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>奈良市や大阪市の夜間中学、福岡市の自主夜間中学の先進校視察を実施しました。また、学校再編地域説明会及び設置校区となる大正校区まちづくり協議会において、それぞれ説明会を実施しました。さらに、大学教員を招いて教育委員会事務局や設置校となる松原中学校の教職員に対しての研修会を実施しました。その他、県教育委員会と設置に向けた協議を重ねています。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民への説明会や市民への広報活動、ニーズ調査を図る必要があります。</li> </ul>		
今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学の専門家を招き、市民への説明会、ニーズ調査の実施について、助言をいただきながら丁寧に準備を進めていきます。また、県との協議を進めながら、開設に向けて運営上の検討を行います。</li> </ul>			

7	事業名	少人数学級編制・少人数授業推進事業	決算額	24,704
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校は全学年で35人以下学級編制を行っており、R2年度は県からの加配教員20人を学級担任として活用し、10校20学年で35人以下学級編制を行いました。中学校は学校の実態に応じ弾力的に35人以下学級編制を行っており、R2年度は2校2学年で35人以下学級編制を行いました。</li> <li>習熟度別や課題別学習などの少人数授業を実施する場合や、学校が特に学力向上が必要と判断した教科がある場合に、非常勤講師を派遣（小学校10校に14人、中学校6校に7人）し、個に応じた学習指導を充実し、学力の向上を図りました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の成果を更に向上できるように、非常勤講師に対する研修の充実を図る必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後数年間における本事業の対象学級数の出現率を見極めながら、非常勤講師の派遣と研修の充実に取り組みます。</li> </ul>		

8	事業名	【重点】「学びに向かう力」育成推進事業<<6. 重点事業 参照>>		
---	-----	-----------------------------------	--	--



9	事業名	【重点】「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業<<6. 重点事業 参照>>
---	-----	---

10	事業名	【重点】子ども大牟田体力検定推進事業<<6. 重点事業 参照>>
----	-----	----------------------------------

11	事業名	学校教育における食育推進事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育推進校（手鎌小学校）及び早寝早起き朝ごはん運動推進校（田隈中学校）の指定、学校給食への地場産青果物の取り入れ、学校給食週間の開催（児童生徒のポスター・標語の募集、学校給食レシピコンテスト）など、食と健康な生活への関心を高めるとともに、食習慣を改善する取組みを進めました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育推進校の実践内容や学校給食を通じた食育を各学校に発信し、食育を更に推進する必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育推進校での取組みの内容とその成果を各校へ拡げるとともに、SDGs の視点を取り入れた食育通信等での啓発を充実することにより、朝食への理解向上等、食習慣の改善に結びついていくよう更なる啓発を進めます。</li> </ul>		

12	事業名	特別支援教育支援員活用事業	決算額	71,576
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>就学指導委員会等により要支援と判断された全ての児童生徒 154 人に対し、小学校 18 校に 36 人、中学校 8 校に 19 人、計 55 人の特別支援教育支援員を派遣しました。きめ細かな支援を受けることで、対象児童生徒本人の精神的な安定が図られ、周囲の児童生徒の理解も進み、学級全体が落ち着き、集中して学習に取り組むことができました。また、保護者の介助等の軽減も図られました。</li> <li>全支援員を対象とした研修会については、R2 年度は新型コロナ感染拡大防止のため、6 月に 1 回（例年は年 3 回（4 月・9 月・1 月））実施し、その他 2 回については、各学校に参考資料等を配布し、校長を中心に校内研修を実施しました。その中で、支援員による児童生徒の発達障害等への理解促進と個に応じた具体的な支援内容の充実に努めました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も要支援児童生徒の増加が見込まれており、それに伴う人材と派遣人数の確保と、各学校の校長を中心とした組織的な校内支援体制の充実が必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>要支援児童生徒の増加に対応できるよう、支援員の人材確保と資質の向上を図るとともに、組織的な校内支援体制づくりに関する管理職への周知を更に進めます。</li> </ul>		

13	事業名	学校再編整備推進事業	決算額	117
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市立学校適正規模・適正配置計画第2期実施計画」の周知を図るため、小・中学生、幼稚園・保育園児の全保護者へ計画概要版を配布するとともに、再編に関する14小学校区のまちづくり協議会等の町内公民館や自治会へ、計画概要版の回覧依頼を行いました。加えて、関係団体へも計画の説明を行いました。</li> <li>・また、再編に伴う橘中学校の施設整備について、地域へ説明を行いながら、関係部局等と協議を行い課題等の整理に取り組みました。</li> <li>・さらに、小川町の通学区域の見直しについて、天領小学校の入学説明会や地域説明会を開催し、丁寧に説明を行い、意見聴取に努めました。</li> <li>・上内小学校の小規模特認校制度については、H24年度から制度を導入したことにより、H24・25年度に生じた複式学級編制はH26年度以降解消しています。また、R2年度は、全校児童57人中25人が本制度により校区外から通学し、引き続き複式学級が解消されるとともに特色ある教育活動が展開されました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校再編の実施にあたっては、保護者や地域等に対し、定期的に計画の周知を行う必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度に引き続き、保護者や地域等に実施計画の内容の周知を行うとともに、R5年度の学校再編協議会の設置に向け、橘中学校の施設整備等、課題の整理を行います。</li> <li>・また、学校再編の実施にあたっては、保護者や地域等の理解・協力を得ることが重要であるため、丁寧な説明を行い計画の推進に取り組みます。</li> <li>・上内小学校については、小規模特認校制度の導入による複式学級解消の成果が上がっており、検証結果や適正配置の観点などを踏まえ、今後も引き続き制度を継続していきます。制度を運用しても、なお複式学級が生じる状況となった場合は、吉野小学校との再編について改めて検討を進めます。</li> </ul>		

14	事業名	学校施設長寿命化改修事業	決算額	150,666
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大牟田市学校施設長寿命化改修計画に基づき、学校施設実態評価により早期に改修が必要な施設の課題整理等を行いながら長寿命化改修を行うこととしています。R2年度は、羽山台小学校校舎(鉄筋コンクリート造4階建4,279㎡)の外壁等の改修を行いました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設の整備については、長寿命化改修以外にも、多くの事業を実施していく必要がありますが、改修時期等を延伸することで施設の老朽化が一層進行し改修費用が更に増加することがないように、学校施設長寿命化改修計画に示す基本方針を踏まえ、計画的に学校施設の長寿命化を進める必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画の財政計画との整合を図るとともに、国等の有利な財源も活用しながら、計画的に学校施設の長寿命化を進めます。</li> </ul>		

15	事業名	「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業【再掲：同編同章 視点2参照】		
----	-----	--	--	--

16	事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業	決算額	8,111
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談室にスクールソーシャルワーカー(SSW)を3人配置し、さらに、県から派遣されたSSWを1中学校区に1人配置しました。SSWが有する社会福祉等の専門的な知識・技能を用いて、児童生徒や保護者の相談に応じたり、福祉機関等の関係機関とのネットワークを活用したりして、問題を抱える児童生徒及びその家族の支援を行い、児童生徒の問題行動等の解決に努めました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数は年々増加し、相談内容も多様化・複雑化しており、よりきめ細かな対応ができるよう、相談体制の充実を図る必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSWと関係機関との更なる連携を図るとともに、拠点校型や派遣型等、児童生徒一人一人の状況に応じたきめ細かな対応ができる相談体制の充実を図ります。</li> </ul>		

17	事業名	就学援助事業	決算額	—
	事業の 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育法等の関係法令及び大牟田市就学援助要綱に基づき、経済的理由によって就学困難な1,429人(小学校975人、中学校454人)の児童生徒の保護者に対し、就学援助として学用品費、学校給食費、医療費等を支給しました。また、心身的な理由により普通教室での就学が困難な児童生徒の保護者に対し、特別支援教育就学奨励費補助を支給しました。</li> <li>・このほか、R2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による収入減少により就学が困難な児童生徒の保護者、また、令和2年7月豪雨災害で被災された児童生徒の保護者に対し就学援助の支援を行いました。(新型コロナウイルス影響:23人、豪雨被災:133人(未就学分含む。))</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も就学援助の制度周知や申請手続面の充実に努めていくとともに、就学援助の運用等についても検討していく必要があります。</li> </ul>		
	今後の 方向性 (具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの貧困対策の推進に関する法律などの関係法令の趣旨を踏まえ、今後も引き続き、援助が必要な児童生徒等の保護者に対し、広報おおむたや学校等を通じて就学援助制度の周知を図るとともに、申請手続面の負担軽減も図りながら、必要な援助を適切な時期に実施できるよう進めていきます。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響による収入減少により就学が困難な児童生徒の保護者、令和2年7月豪雨災害で被災された児童生徒の保護者に対しては、R3年度も引き続き就学援助の支援を行います。</li> </ul>		

# 評価・検証シート【事業】

## 6. 重点事業

事業名		未来を創る ESD 推進事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
ESDを通じた地域や世界への貢献の意識	目標値 (%)	90.0	90.0	90.0	90.0	地域や世界のために頑張りたいと答えた小学5年生と中学2年生の割合 (H30年度実績・89.7%) を、毎年度 90.0%以上を維持することを目標とします。
	実績値 (%)	91.0				
	達成度 (%)	101.1				
<b>事業の実施状況</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒による ESD の学習成果の発表と交流の場「ユネスコスクール・SDGs/ESD 子どもサミット」を1月に開催（無観客）し、小学校6校・中学校2校が発表しました。</li> <li>・各学校に指導主事を派遣して SDGs/ESD の教育活動を支援しました。また、児童生徒対象の ESD 体験講座「ネイチャースクール」を11月に開催し、28人が参加しました。</li> <li>・教職員研修会「ユネスコスクール・SDGs/ESD 実践交流会」や、ESD の中核となる指導的教員「ESD マスターティーチャー」の養成講座を通して、SDGs/ESD の理論と実践について学びを深める機会を提供しました。</li> <li>・国連大学との連携を進めるとともに、国連大学が認定する ESD 推進拠点「RCE 大牟田」として、国内の RCE と3回のオンライン会議を行い、取組みの紹介や情報交流を行いました。</li> <li>・市内企業、団体等への SDGs/ESD についての講話や各学校の取組みを紹介するなどして啓発を進めました。</li> <li>・本市の SDGs/ESD の取組みについて、広報おむたやホームページ等を通して紹介・啓発を行いました。</li> </ul>						
<b>決算</b>		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	1,506 千円					1,506
(次年度への繰越)						
<b>課題</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の ESD をリードしていく教員を今後も養成するとともに、市民団体や地元企業等との連携を図り、各学校が重点とする SDGs の達成を目指した ESD の充実を図っていく必要があります。</li> </ul>						
<b>今後の方向性(具体策)</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大牟田版 SDGs (Ver. 2)」を参考に各学校が目指す SDGs を重点化するとともに、「SDGs/ESD 実践交流会」や「ユネスコスクール・SDGs/ESD 子どもサミット」を通して、ESD の更なる充実を図ります。</li> </ul>						

事業名		英語教育のまち・OMUTA 推進事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
英語の授業の理解度	目標値 (%)	85.0	85.0	85.0	85.0	外国語（英語）科の授業はよく分かると答えた小学5年生と中学2年生の割合 (H30年度実績・84.2%) を、毎年度 85.0%以上を維持することを目標とします。
	実績値 (%)	88.0				
	達成度 (%)	103.5				
<b>事業の実施状況</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の指導のサポートを行う「イングリッシュ・アドバイザー」を各小学校に派遣し、5・6年生の外国語科の授業の充実を支援しました（7月～8月）。</li> <li>・「OMUTA の宝」に関する「英語版子ども大牟田検定（仮称）」の検定問題案を児童生徒から募集し、応募のあったものの中から選定を行って作成しました。</li> <li>・小中学校の英語教育の発表の場「オオムタ・E1 グランプリ」の作品募集において、小学校は英語のスキット（寸劇）、中学校は英語のスピーチや暗唱の動画の応募（全28本）があり、12月に審査・表彰を行いました。</li> <li>・「英語検定チャレンジスクール」を3回開催し、小学生5・6年生82人、中学生2・3年生20人が参加しました。</li> <li>・明治小学校の拡大校内研修会（11月）に外部講師を派遣し、英語教育の推進を支援しました。</li> <li>・明治小学校・大牟田中央小学校と動物園の連携による、児童の興味関心を活かした教育（英語で動物を説明等）を支援しました（11月）。</li> <li>・小学5・6年生の英検5級受験者225人と中学2・3年生の同3級受験者106人に検定料の一部を補助しました。</li> </ul>						
<b>決算</b>		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	893 千円					893
(次年度への繰越)						
<b>課題</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の全面実施（小学校：R2年度、中学校：R3年度）に合わせた学習活動の充実を図り、英語を使う実践力の向上が必要です。また、英検検定料の一部補助の継続を含め、児童生徒の興味・関心に応じた学習機会を継続的に提供することが必要です。</li> </ul>						
<b>今後の方向性(具体策)</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の全面実施と合わせ、小学校段階での英語を「読む」「書く」の学習が充実するよう、学習展開の充実を図ります。また、R2年度に参加希望の多かった「英検チャレンジスクール」の開催や、「オオムタ・E1 グランプリ」の開催（内容や方法の変更）、英検検定料の一部補助について取組みを継続します。</li> </ul>						



事業名		「学びに向かう力」育成推進事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
主体的に学習に取り組む態度	目標値(%)	84.0	84.0	84.0	84.0	学習の進め方を自分で考えながら、ねばり強く取り組んでいると答えた小学5年生と中学2年生の割合(R元年度実績・83.2%)を、R5年度に85.0%とすることを目標とします。
	実績値(%)	84.8				
	達成度(%)	101.0				
事業の実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> <li>各小中学校の放課後等の補充学習に学習サポーターを派遣し、学習の充実を支援しました。</li> <li>理科や社会の自由研究のコンテスト「学びのグランプリ」を実施して、優れた作品を選考し、小中学生各6人を表彰しました。</li> <li>毎月11日を「家庭学習の日」と定め、各中学校区で小中学校が連携し、家庭学習習慣の定着に取り組みました。</li> <li>各学校の校内研修等への指導主事の派遣による指導助言、学力向上実践報告会の開催(2月)など、小・中学校が連携して学力向上を図るための取組みを進めました。</li> <li>本市の学力向上の取組みについて、ホームページやSNS等で保護者や市民への情報発信を行いました。</li> </ul>						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額 (次年度への繰越)	1,072 千円 千円)		220			852
課題						
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒一人ひとりの学力の実態に応じたきめ細かな学習指導の充実や、新学習指導要領の全面实施(小学校:R2年度、中学校:R3年度)の趣旨を生かした主体的・対話的で深い学びを推進する学習指導を実現するための教師の指導力向上が課題です。</li> </ul>						
今後の方向性(具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校が実施する「強化学習」や「補充学習」への学習サポーター派遣を継続し、個に応じたきめ細かな指導を行います。また、児童生徒の学習への興味関心を高めるとともに、各学校が作成する「学力向上プラン」の充実や、授業改善の確実な実施について指導助言を行い、学力向上を図る取組みを実施します。</li> </ul>						

事業名		「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
友だちを大切にする意識	目標値	3.7	3.7	3.7	3.7	学校生活アンケート(1~4の4段階で評価)での「友だち関係」の項目のH30年度の平均値3.7ポイント(小学5年生と中学2年生を対象)を毎年度上回ることを目標とします。
	実績値	3.72				
	達成度(%)	100.5				
事業の実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校区単位(1回目:7~8月)と学校単位(2回目:12~1月)での「児童会・生徒会リーダーミーティング」を開催し、各学校の児童生徒が「思いやり・親切」に係る取組みの成果と課題等について協議しました。2回目のリーダーミーティングは、1回目の成果を踏まえて市全体で開催する計画でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむを得ず学校単位での実施としました。そのため、計画していた市全体の次年度の共通実践の採択はできませんでしたが、それに代えて、学校単位で次年度に取り組む内容を確認しました。</li> <li>6月に児童会・生徒会担当者会を開催し、「思いやり・親切」に係る各学校の取組みの情報共有を行うなどして、児童生徒主体の取組みの充実を図りました。</li> <li>6月と10月を「思いやり・親切」に係る重点月間とし、以下の取組みを行いました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)6月に各学校の児童会・生徒会で「思いやり・親切」のある楽しい学校づくりの具体的な取組みを定め、以後取り組みました。また、各学校に対し「思いやり・親切」に係るポスターと標語を募集しました。</li> <li>(2)10月に各学校で上記の取組みの振り返りを行うとともに、特に友だちの関わり方のよかった児童生徒(個人やグループ等)を学校代表の「友だち応援隊」として選びました。</li> <li>(3)各学校で募集が行われたポスターと標語の審査を10月に行い、優れた作品を表彰しました。</li> </ul> </li> <li>各学校の児童会・生徒会が「思いやり・親切」に関するチラシやポスターの配布等の啓発活動を行いました。</li> </ul>						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額 (次年度への繰越)	100 千円 千円)					100
課題						
<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍でも、市全体の共通実践を採択し、実践の成果と課題を共有する仕組み作りが必要です。</li> </ul>						
今後の方向性(具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校区単位の取組みと学校単位の取組みを市全体で共有し、その上で、市全体の共通実践を採択する仕組みを構築します。そして、この共通実践を各学校で更に具体化することで、取組みの充実を図っていきます。また、各学校が保護者や地域に向けて積極的に情報発信するよう支援を継続します。</li> </ul>						

事業名		子ども大牟田体力検定推進事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
運動を大切に思う意識	目標値(%)	63.0	63.0	63.0	63.0	運動を大切に思うと答えた小学5年生と中学2年生の割合(H30年度実績:62.2%)を毎年度上回ることを目標とします。
	実績値(%)	64.8				
	達成度(%)	102.9				
<b>事業の実施状況</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に「体力向上チャレンジカード」と「検定カード」を全児童生徒に配布し、各学校では、1日15分以上の運動習慣の定着や、体育の授業や昼休み等での個人や集団での縄跳びの指導を通して体力の向上を図りました。</li> <li>・全学校で年2回の子ども大牟田体力検定を実施し、到達度合いに応じた体力認定証を配布しました。</li> <li>・小・中学校体育科研究会と連携し、児童生徒の体力実態を踏まえた体力検定の行い方等について検討しました。</li> </ul>						
<b>決算</b>		<b>国</b>	<b>県</b>	<b>起債</b>	<b>その他</b>	<b>一般財源</b>
決算額 (次年度への繰越)	94 千円 千円)					94
<b>課題</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校において、子ども体力検定に係る取組みを通して、運動の喜びや楽しさを味わわせ、更なる運動の習慣化を図る必要があります。また、中学校においては、各学校の実態に応じた取組みの工夫を継続していく必要があります。</li> </ul>						
<b>今後の方向性(具体策)</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校においては、運動の習慣化を重点化し、運動の喜びや楽しさを味わわせるため、「体力検定チャレンジカード」の活用の充実を図ります。中学校においては、各学校の体力に係る実態に応じて、学校独自の取組みを重点化し、目標達成に向けた取組みを継続していきます。</li> </ul>						



# 評価・検証シート【施策】

令和 2 年度

【所管部局】企画総務部

施策名	(第1編第3章) 専門的な教育の機会が確保され、高等教育機関等との連携や交流が進むまち
-----	--

## 1. 計画(Plan)

意図(どういう状態になることを狙っているのか)
市民の身近なところで専門的な教育を受けることができ、高等教育機関等との連携や交流、学生等のまちづくりへの参加が進むまちを目指します。

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
高等教育機関等との連携事業数	目標値(事業)	30	30	30	30	現状値を踏まえ目標値を設定。 [現状値:30事業(過去3年間の平均)]
	実績値(事業)	15				
	達成度(%)	50.0				

## 2. 実行(Do) → 構成事業の実施による

## 3. 検証・評価と今後の方向性(Check & Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析(①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)
<ul style="list-style-type: none"> <li>本市と高等教育機関等との連携や学生等の参画については、年度当初に35事業での連携を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点や令和2年7月豪雨災害の影響により、20事業が中止となり、実施できたのは15事業でした。</li> <li>実施された連携事業においては、観光基本計画の策定に係るワークショップへの学生等の参加や、地球環境問題や子育て支援等に関する市民講座等が開講され、市民が身近なところで専門的な知識に触れる機会となりました。また、首都圏の大学生による、高齢者の移動や免許返納の意識などに関する調査が行われ、調査結果を大学と情報共有しました。</li> </ul>
(2) 今後の方向性((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた方針を示す)
<ul style="list-style-type: none"> <li>高等教育機関等の存在は、本市において教育を受ける機会の多様化に寄与しています。教育水準の向上はもとより、高度な専門教育による優秀な人材の輩出、大学が存在することによる都市イメージの向上、多くの若い人たちが大牟田に集まることによりもたらされるまちのにぎわいなど、地域の活性化が期待されます。</li> <li>引き続き、今後のまちづくりを担う人材を育成するとともに、地域課題の解決を図るため、新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、学生等のまちづくりへの参加を促進します。</li> <li>これまで市内の高等教育機関である医療系の帝京大学、理系の有明工業高等専門学校などを中心に連携を進めてきました。こうした連携は継続しながら、市外の高等教育機関等の持つ知見を活かしたまちづくりにも取り組みます。</li> </ul>
(企画総務部長 岡田 和彦)

#### 4. 施策推進の視点と各構成事業

No.	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	R2 目標 R2 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点 1] 高等教育機関等との連携の推進							
1	高等教育機関等との連携事業	総合政策課	高等教育機関等との連携事業数	事業	30 15	遅れ	継続
[視点 2] 学生等のまちづくりへの参加促進							
2	学生等のまちづくり参加促進事業	総合政策課	市主催事業等への参加者数	人	600 180	遅れ	継続

# 評価・検証シート【事業】

## 5. 構成事業

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

1	事業名	高等教育機関等との連携事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の高等教育機関等の充実促進を図るため、さまざまな機会をとらえ、帝京大学福岡キャンパス、有明工業高等専門学校との意見交換を行いました。</li> <li>高等教育機関等が持つ教育資源との連携や人材・情報の交流を推進するとともに、市民がより高度な知識や情報を得ることを目指し、15の連携事業に取り組みました。しかしながら、連携を予定していた事業のなかには、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点や令和2年7月豪雨災害の影響により、実施できなかった事業もあります。</li> <li>R3年3月には、本市の産業界の活力となる若手人材の育成・確保に向け、学生の就職活動の支援について相互に連携・協力することを目的に、新たに日本経済大学と就職促進に関する協定を締結しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等教育機関等の持つ知見を活かしたまちづくりに取り組むため、新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、高等教育機関等とこれまで以上に連携を図ることが必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、各部局による連携事業の実施を促します。また、新型コロナウイルスの感染状況に留意するとともに、必要な感染対策を講じながら、今後も高等教育機関等との連携を図ります。</li> </ul>		

2	事業名	学生等のまちづくり参加促進事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民講座やワークショップなどにおいて、市内外の高等教育機関等との連携を行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点や令和2年7月豪雨災害の影響により、目標には届きませんでしたが、延べ180人の参加がありました。こうした連携を通じ、主体的な活動などに結びつく人づくりを進めました。</li> <li>新設した高等教育機関等連携推進費を活用し、首都圏の大学生による、高齢者の移動や免許返納の意識などに関する調査が行われ、関係各課で調査結果を共有しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市が実施している事業のうち、学生等の参加が可能なものについては、連携の可能性を検討していくことが必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの感染状況に留意するとともに、必要な感染対策を講じながら、引き続き、各部局における取組みへ学生等の参加を促します。</li> </ul>		

# 評価・検証シート【施策】

令和 2 年度

【所管部局】市民協働部

施策名	(第1編第4章) 未来に向けて、ともに学び、地域で行動する人がはぐくまれるまち
-----	--

## 1. 計画(Plan)

意図(どういう状態になることを狙っているのか)
次世代を担う子どもたちを中心に、ともに学び、考え、行動する人がはぐくまれるまちを目指します。

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
将来、大牟田のために役に立ちたいと思う高校生等の割合	目標値 (%)	90.0	90.0	90.0	90.0	事業に参加した高校生等向けアンケートにおいて90.0%以上を目指す。
	実績値 (%)	77.8				
	達成度 (%)	86.4				
地域にある課題解決に向けて、自らが出来ることに取り組みたいと思う市民の割合	目標値 (%)	50.0	50.0	50.0	50.0	現状値を踏まえ50.0%以上を目指す。 [現状値:47.5%(H30年度実績)]
	実績値 (%)	46.2				
	達成度 (%)	92.4				

## 2. 実行(Do) → 構成事業の実施による

## 3. 検証・評価と今後の方向性(Check & Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析(①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの体験活動をはじめとする子どもの参加型事業等については、目標値まで達していない事業があるものの、コロナ禍にも関わらず、地域を含む団体等におけるボランティアへの理解や協力、見守り等で様々な事業に熱心に取り組んでいただき、今後の活動につながっています。また、新たな取組みとして、高校生まちづくり体験事業や学校ESDなどを開始し、小学校・中学校との新たな関係が構築されるとともに、高校や高校生との繋がりが図られました。</li> <li>・成果指標については、青少年の体験活動等の各事業を通じて、地域等で子どもの育成や見守り活動へ多くの参加がありましたが、新型コロナの影響により、各事業の実施数が計画していた数まで伸びなかったことや組織・団体等での活動の縮小などにより、身近な地域での参加ができなくなっていることなどから、目標値より低くなっています。</li> <li>・地域学習機会提供事業、人材育成・地域活動促進事業などを実施し、地域課題の把握や解決に向けた取組みを行ったことで、市民の幅広い学習機会の提供を行うとともに、学習活動の必要や地域づくりに対する意識の醸成が図られました。</li> </ul>
(2) 今後の方向性((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた方針を示す)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの地域や各団体における小学生を対象とした事業だけでは、活動に限界があることなどから、中学校や高校を巻き込んだ新たな事業展開を図り、地域や学校を含め、小学生から中学生、高校生、そして地域のボランティア等の大人までが一体となった地域全体における次世代育成の推進を図ります。</li> <li>・そのためには、家庭や学校、地域の理解と多くのボランティアの協力が必要となることから、より多くの市民に各事業の取組みや主旨を理解のうえ、協力いただけるよう事業の内容や必要性について、引き続き周知・啓発を図ります。加えて、組織や団体が継続できるよう、統合や新たな組織のあり方を検討して、子どもたちが心身ともに健康でたくましく思いやりの心やふるさとを愛する心を持った自立した大人へと成長していくことにつながるような支援を検討します。</li> <li>・また、地域での学習活動の支援では、課題やニーズを的確に捉えた地域課題の解決に向けた学習の機会を、地区公民館をはじめ、市民により身近な場所で提供するとともに、学校や地域、関係機関との連絡調整を密にしながら、事業の組立や運営に反映させます。特に、これから本格的に事業展開を行う高校生を中心とした事業を推進します。加えて、企業出前講座の充実や生涯学習ボランティア派遣などを通して、学習機会を提供し、更なる生涯学習によるまちづくりの推進を図ります。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(市民協働部長 中島 敏信)</p>

#### 4. 施策推進の視点と各構成事業

No.	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	R2 目標 R2 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点1] 次世代を担う子どもをはぐくむ							
1	子ども交流体験事業(次世代を担う人づくり事業)	生涯学習課	引き続き活動したいと思った児童等の割合	%	50.0 86.0	順調	継続
2	【重点】高校生まちづくり体験事業(次世代を担う人づくり事業)	生涯学習課	参画した高校の数	校	5 6	順調	継続
3	子どもの読書推進事業	生涯学習課	12歳以下の住民基本台帳人口1人あたりの児童図書の本均貸出冊数	冊	15.8 10.8	遅れ	継続
4	子どもの体力向上事業	スポーツ推進室	半年後に運動・スポーツを週1回以上継続して実施している子どもの割合	%	100 -	遅れ	継続
5	スポーツ少年団育成委託事業	スポーツ推進室	小学生数に占めるスポーツ少年団員数の割合	%	13.0 10.2	やや遅れ	改善
6	各世代に応じた学習活動支援事業	生涯学習課	各事業の参加者(講師等を含む)が学んだ成果を活かすことができたと答えた割合	%	90.0 76.1	順調	継続
7	家庭教育支援事業	生涯学習課	就学前子育て講座の出席率	%	85.0 81.9	順調	継続
8	わくわくシティ基金事業	スポーツ推進室、生涯学習課	スポーツ・文化の振興を通じた青少年育成事業への助成件数	件	2 0	遅れ	継続
9	(再掲)文化芸術体験を通じた子ども・若者育成事業	生涯学習課	大牟田への愛着が以前より深まった参加者の割合	%	80.0 -	遅れ	継続
10	(再掲)文化芸術が生み出すまちの魅力アップ事業	生涯学習課	課題を解決するためには他者を尊重したり支えあうことが重要だと理解した参加者の割合	%	90.0 -	遅れ	継続
[視点2] ESDを通じた人づくり、つながりづくり、地域づくり							
11	生涯学習ボランティア登録派遣事業	生涯学習課	生涯学習ボランティア延べ登録者数	人	1,585 1,566	順調	継続
12	地域ESD推進事業	生涯学習課	参加者の地域活動への参加意欲の増加	%	90.0 77.3	順調	継続
13	【重点】学校ESD支援事業	生涯学習課	支援を行った小・中・特別支援学校の数	校	4 7	大変順調	継続
14	人材育成・地域活動促進事業	生涯学習課	年度末までに講座等から発足した新規の地区公民館サークル数	団体	15 8	遅れ	継続
15	学習成果活用促進事業	生涯学習課	各地区公民館におけるサークル・地域団体、学校の作品展示等の事業数	件	15 56	大変順調	継続
[視点3] 学習環境の整備・充実							
16	学習情報提供事業	生涯学習課	愛情ねっと・大牟田ちよんどうよ課への「学習・講座」情報の掲載件数	件	220 237	順調	継続
17	多様な学習機会提供事業	生涯学習課	インターネットを活用した学習コンテンツの配信数	件	3 8	大変順調	継続
18	社会教育機能向上事業	生涯学習課	研修参加者のうち研修で得たものを事業に活かしたいと答えた延べ職員数の割合	%	100 95.5	順調	継続
19	地区公民館等整備事業	生涯学習課	当該年度に予定していた施設修繕の実施率	%	100 100	順調	継続
[視点4] 青少年の問題行動や悩みへの対応							
20	青少年健全育成事業	生活安全推進室	本市の非行者率(少年人口千人当り)	%	2.7 1.8	順調	継続



# 評価・検証シート【事業】

## 5. 構成事業

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

1	事業名	子ども交流体験事業(次世代を担う人づくり事業)	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区公民館において、食や環境等をテーマに、ものづくりや自然体験など子どもたちの体験活動講座を12講座開催しました。(9事業は新型コロナ感染拡大防止のため中止)</li> <li>・子どもの居場所事業では、新型コロナの影響により事業の中止が相次ぎましたが、21団体の17団体においては、感染防止策を講じて実施することができました。なお、通学合宿事業は、宿泊を伴うことから実施した団体はありません。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区公民館で実施する講座は小学生を対象としたものが中心であるため、中学・高校生への広がりが必要で。</li> <li>・子どもの減少やニーズの多様化、ボランティアの高齢化等により、継続した取組みに必要な子どもの参加者を確保できず、活動が成り立たなくなり解散等する団体も発生し、活動団体数が減少しています。</li> <li>・地域で活躍するボランティアが高齢化するとともに、同じ方が複数の団体で活動するなどボランティア活動に偏りがあります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座に参加した小学生が、中学・高校生になっても公民館の事業などに参加できるように一貫性のある取組を図ります。</li> <li>・地域全体での子育てができるような機運の醸成や活動団体の確保が必要なことから、ボランティア活動への理解促進・活動への参加意識の醸成を図るとともに、活動が厳しい団体の統合や新たな組織のあり方を検討し、地域における子どもの育成や見守り活動への参加を促します。</li> </ul>		

2	事業名	【重点】高校生まちづくり体験事業(次世代を担う人づくり事業)《6. 重点事業 参照》		
---	-----	--	--	--

3	事業名	子どもの読書推進事業	決算額	774
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての子どもが絵本と出会う機会をつくるため、出生時の手続きをする窓口において、絵本と布バッグ等がセットとなったブックスタートパックを手渡ししました。</li> <li>・例年、「赤ちゃんとのコミュニケーション講座」を実施していますが、R2年度は新型コロナ感染拡大防止の観点から中止しました。講座に代わるものとして、NPOブックスタートが制作した、乳幼児期における読書活動の大切さを紹介する動画を、ブックスタートパックのリーフレットやホームページ、広報おおむたに掲載し、広く周知しました。</li> <li>・新型コロナ感染拡大防止の為、図書館を臨時休館したことで児童図書の貸出し冊数が減少しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における「絵本を一緒に楽しむ」体験の機会づくりが必要です。</li> <li>・乳幼児期における読書活動の大切さについて、引き続き保護者等に広く周知啓発することが必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の指定管理者と連携し、講座や各種おはなし会以外にも、子どもの読書活動を推進するための情報発信や本に親しむ機会づくりを行います。</li> <li>・保育所等の協力を仰ぎ、乳幼児期における読書活動の大切さを保護者に啓発する取組を推進します。</li> </ul>		

4	事業名	子どもの体力向上事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前の子どもと親を対象に、親子の運動遊びを通して運動・スポーツに親しめる「親子運動セミナー(全5回)」を実施する予定でしたが、新型コロナ感染拡大防止のため中止しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益財団法人日本レクリエーション協会の分析では、学習や室内遊びの時間の増加、屋外での遊び場の減少、少子化等による仲間の減少等、子どもを取り巻く環境変化が、運動不足、体力低下を招いているとしています。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響が長期化した場合に備え、リモートやオンライン等を活用した事業についても検討します。</li> </ul>		



【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

5	事業名	スポーツ少年団育成委託事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ 2020 市民の祭典への参加、スポーツ少年団交流運動会、体カテスト、指導者研修会等を実施しましたが、交流ドッジボール大会は新型コロナ感染拡大防止のため、中止しました。</li> <li>・機関紙「スポーツ少年団ニュース」を発行しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ少年団の組織数、団員数が減少傾向にあり、少年団の存続や団員確保が困難になってきています。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子どもたちのスポーツ活動の場を提供する貴重な組織で、引き続き支援が必要であるため、委託先と連携し、周知啓発等を通じた団員確保に努めます。</li> <li>・少年団が抱える課題等を調査・整理し、次期スポーツ推進計画 (R5 年度)を策定する中で、方向性を導きます。</li> </ul>		

6	事業名	各世代に応じた学習活動支援事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や子育て世代をはじめあらゆる層の市民が参加できる学習機会を提供するため、地区公民館において 14 講座を開催しました。(2 講座は新型コロナ感染拡大防止のため中止)</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座終了後も学習活動に結び付く取組みが必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座の対象者を明確にし、内容や実施時間の設定など検討し、より多くの人が参加しやすい講座を実施します。</li> <li>・講座受講者による新たなサークルの立ち上げや、既存サークルへの加入により、継続した学習活動につながる講座の実施を目指します。</li> </ul>		

7	事業名	家庭教育支援事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを持つ保護者に発達段階に応じた家庭教育のあり方を見つめなおす機会を提供するため、「幼児期子育て講座」「就学前子育て講座」を実施しました。「就学前子育て講座」については、就学前の全保護者の参加が見込める入学説明会を活用して実施しました。また、幼稚園等入園前の子どもの保護者が子どもと一緒に安心して集える「子育てふれあい広場」を実施しました。</li> <li>・地区公民館において、幼児、小学校低学年・高学年、思春期などに区分し、「家庭教育講座」を 5 講座開催しました。(2 講座は新型コロナ感染拡大防止のため中止)</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「就学前子育て講座」については、講座内容の充実を図るなどの検討が必要です。</li> <li>・子どもの発達段階に応じた講座の開催が必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの保護者に、家庭教育のあり方について見つめ直す機会を提供できるよう、効果的な子育て講座等の周知や実施方法等を検討します。</li> <li>・地区公民館ごとに発達段階に応じた講座を開催します。</li> </ul>		

8	事業名	わくわくシティ基金事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2 年度は文化芸術分野が 2 事業、スポーツ分野が 1 事業を実施する予定となっていたのですが、新型コロナの感染拡大の影響により、全ての事業が R3 年度に延期することとなりました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや若者が貴重な体験ができるよう、基金事業について広く周知し、活用を促進していく必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の掘り起こしと、多くの応募が得られるための周知を行います。</li> <li>・公募事業に係る事業計画書の作成に当たっては、生涯学習課、スポーツ推進室でサポートを行います。</li> </ul>		

9	事業名	文化芸術体験を通した子ども・若者育成事業【再掲：同編第6章 視点2参照】
---	-----	--------------------------------------

10	事業名	文化芸術が生み出すまちの魅力アップ事業【再掲：同編第6章 視点3参照】
----	-----	-------------------------------------

11	事業名	生涯学習ボランティア登録派遣事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度は、新型コロナの影響により、ボランティア活動そのものの自粛を余儀なくされたほか、学習会や行事等の会場として使用されている施設等が利用中止になり、すでに派遣が決定していた事業も中止や延期されたため、派遣回数が例年と比べて大きく減少しました。</li> <li>＜生涯学習まちづくり推進本部＞</li> <li>・生涯学習ボランティア延べ登録者数：1,566人</li> <li>・派遣回数：延べ353回（参加者数延べ8,334人）</li> <li>・表彰式・発表会の開催及びYouTubeでの動画配信（2月）</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア登録者の高齢化が進み、登録団体における会員確保や後継者の育成が困難な状況にある団体が増えつつあります。</li> </ul>		
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規登録者を増やす取組みや既存の登録団体の会員を増やす取組みを行い、登録者の確保へつなげます。そのために、登録団体の会員募集や活動紹介の支援を行います。</li> </ul>		

12	事業名	地域ESD推進事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題の解決に結びつくような学習活動や地域の伝統文化を次世代に継承する取組み、地域コミュニティの形成、人材発掘・人材育成に向けた取組みなどを校区まちづくり協議会などの関係団体との協議を行い、ニーズをとらえて進める事業を10講座実施しました。（9事業は新型コロナ感染拡大防止のため中止）</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だけではなく、地域におけるESDの取組みへの理解を深める必要があります。</li> <li>・地域における活動が、高齢化や地域の活動に対する意識の低下等で一部の住民に偏っている状況があります。</li> </ul>		
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題解決のきっかけとなるよう、ESDの視点を持った取組みへの理解の促進を図ります。</li> <li>・地域との関わりの中で機会をとらえ、人づくり、つながりづくり、地域づくりに結び付くような取組みを実施します。</li> </ul>		

13	事業名	【重点】学校ESD支援事業<<6. 重点事業 参照>>
----	-----	-----------------------------

14	事業名	人材育成・地域活動促進事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだ成果を活かす活動の場や機会の提供を図る事業を実施しました。また、ボランティア団体や地域の団体、公民館で活動するサークル等の活動について、必要に応じた支援を行う事業など、9事業を実施しました。新型コロナ感染拡大防止のため少人数の講座としたほか、8講座を中止した影響もあり、新規のサークルの発足数が見込みよりも低くなりました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館で活動するサークル等が、学んだ成果をボランティア活動、地域活動に活かしていく意識の醸成を図る取組みが必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区公民館で活動するサークルに、学んだ成果を社会に還元していくことの意義や重要性について、活動時や研修会などの機会をとらえ、理解を深める取組みを実施します。</li> <li>・講座などから立ち上がったサークルや、ボランティア活動を行っている（行いたい）市民、団体の生涯学習ボランティア登録を促し、活動機会の提供を図ります。</li> </ul>		

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

15	事業名	学習成果活用促進事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者のボランティアを養成する「アクティブシニアデビュー塾ボランティアデビュー編」2講座を開催し、28人が受講しました。(1講座は新型コロナ感染拡大防止のため中止)</li> <li>・地区公民館の各サークル活動の日頃の成果として、新型コロナの影響により中止した文化祭等に替え、公民館ロビーなどを活用し、長期間の作品展を開催するなど、会員の活動の場の拡大と各サークル等の団体の発展を目指した事業を実施しました。</li> <li>・子どものサークル体験や学校の活動の成果などの作品展示を行うなど、世代間の交流と通して、次世代育成の構築を図りました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座の受講者やボランティア登録者が、学習の成果を地域での活動に活かす機会の提供が必要です。</li> <li>・地区公民館で活動するサークルが学んだ成果を発表する場や機会を創出し、まちづくりへ参画する意識の醸成が必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区公民館で実施する講座等における講師の選定の際に、生涯学習ボランティア登録者等を積極的に活用し、新たな学びや活動の循環を図ります。</li> <li>・文化祭や、ロビー展などサークルの学びの成果を発表できる機会を創出します。</li> </ul>		

16	事業名	学習情報提供事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して情報誌やリーフレット、ホームページ、愛情ねっと、FM たんとなど多様な媒体を活用し、様々な学習情報を提供しました。</li> <li>①学習情報誌「まなびのカタログ」の発行(奇数月に年6回発行 2,000部/回)</li> <li>②生涯学習メニューブックの発行(冊子2,000部)</li> <li>③広報おおむたによる学習情報及び生涯学習の啓発(全3回)</li> <li>④その他:ホームページ、SNS、愛情ねっと、FM たんと、YouTubeを活用した情報発信</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民がいつでも気軽に学習活動が行えるよう、情報発信の強化を図り、必要な学習情報がすぐに得られるようにすることや、様々な学習情報を提供することで、日頃学習活動を行っていない人の学習意欲を喚起し、学習活動に参加してもらうことが必要です。</li> </ul>		
今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の学習活動を支援できるよう、学習情報の発信に関する全庁的なルール化を図り、講座や催し物などの情報がより多くの人に伝わるように取り組みます。</li> </ul>			

17	事業名	多様な学習機会提供事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響により、出前講座の派遣回数が例年と比べて大きく減少しましたが、企業や高等教育機関との連携などにより実施する学習機会の充実を図るとともに、動画配信など様々な媒体を通じて各事業のプロモーションを行うことで、市民の自主的な学習活動の促進につながりました。</li> <li>&lt;生涯学習まちづくり推進本部&gt;</li> <li>・企業出前講座「がんばる地場企業」【企業】: 21社 40メニュー/実施回数 13回/受講者 延306人</li> <li>・市民大学講座【高等教育機関との連携】: 4回(帝京大学・有明高専)/受講者 延73人</li> <li>&lt;生涯学習まちづくり推進会議&gt;</li> <li>・市役所職員出前講座【行政】: 118メニュー/派遣回数 51回/受講者数 延1,698人</li> <li>・動画で学ぼう出前講座(インターネットを活用した出前講座の動画配信)【行政】: 8件</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座については、受講時の新型コロナ対策について、主催者に注意喚起を行うとともに、参加者への呼びかけを徹底してもらうように努めていますが、会場の利用制限や申請団体の自粛等によって中止や延期となる場合があります。</li> </ul>		
今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き出前講座の情報発信や感染症対策の呼びかけを行うとともに、インターネットを活用した講座の動画配信に加えて、オンラインでの配信等ができる仕組みを構築します。</li> </ul>			

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

18	事業名	社会教育機能向上事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館職員研修会については、地区公民館の職員を対象に、ファシリテーション研修や事業企画の方法など職員のスキルアップを図ることを目的に、9回の研修会を開催しました。(大雨などのため2回中止)</li> <li>・社会教育関係職員研修会については、社会教育関係職員を対象に、社会教育の今後の役割の理解を促進するとともに、ファシリテーションスキルの向上を図ることを目的に、公民館職員研修会と同時開催で2回実施しました。</li> <li>・新任公民館職員研修会については、新任の公民館職員を対象に、社会教育公民館の役割についての基礎的な知識の習得のため、研修会を1回開催しました。</li> <li>・新任社会教育関係職員研修会については、新任の社会教育関係職員を対象に、市民協働部各課の取組みを知ることで、部内の連携促進を図ることを目的に、研修会を1回開催しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育に携わる職員が一層スキルアップできるよう、研修の充実を図る必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任公民館職員研修会を年間通して段階的にスキルアップできるプログラムで実施します。</li> <li>・新たに、館長の研修会を実施します。</li> <li>・社会教育関係職員向けのオンライン関連の研修を実施します。</li> </ul>		

19	事業名	地区公民館等整備事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設維持管理計画に基づき、三池地区公民館の屋上等の防水工事、内部改修工事、非常放送設備の更新、エレベーターの更新を行いました。</li> <li>・このほか、来館者が安心・安全に施設を利用できるように、必要に応じた施設修繕を行いました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7地区公民館のうちの6館及びリフレスおおむたはすでに建設から20年以上を経過しており、経年劣化による雨漏り等の不具合が多発しています。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設維持管理計画に基づく計画的な改修等を実施します。</li> </ul>		

20	事業名	青少年健全育成事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街頭指導活動を延べ2,030人で390回、青パト巡回を延べ836人で420回行いました。指導された少年の数は260人でR元年度と比べて93人の減少となりましたが、これは、積極的な指導活動の成果であるとともに、新型コロナウイルス感染拡大による店舗休業等の影響もあると考えます。</li> <li>・有害環境浄化活動として、コンビニエンスストアや書店等89店舗等への要望活動や立入調査を7月と11月に実施しました。</li> <li>・相談事業では、悩みを持つ青少年自身のみならず保護者等からも相談を受け指導助言を行っていますが、相談件数が減少しています。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談事業では、SNSをはじめとする様々な問題に対応するため、相談機能を強化する必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談事業では、関係機関と連携を図り、相談機能の強化に取り組みます。</li> </ul>		



# 評価・検証シート【事業】

## 6. 重点事業

事業名		高校生まちづくり体験事業（次世代を担う人づくり事業）				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
参画した高校の数	目標値(校)	5	6	7	8	R5年度に市内の高校・高等専門学校全校の参画を目指し、年1校ずつ増加
	実績値(校)	6				
	達成度(%)	120.0				
<b>事業の実施状況</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度に、本事業を支援することを目的として、青少年団体等から組織する協議会を創設しました。</li> <li>・ふるさと魅力発見ウォーク部会として、「青春（アオハル）Walk」と称した事業の企画・運営するスタッフを募集し、高校等に通う生徒23人（市内6校20人、市外3人）の参加により事業を実施することができましたが、小・中学生の参加者については新型コロナ感染拡大防止の観点から募集を中止としました。</li> </ul>						
<b>決算</b>		<b>国</b>	<b>県</b>	<b>起債</b>	<b>その他</b>	<b>一般財源</b>
決算額	182 千円					
(次年度への繰越	千円)	91				91
<b>課題</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、学校としての参画が厳しい状況が続いています。また、高校生と地域の方々との交流の機会等の提供も困難な状況となっています。このような状況において、高校生等の達成感やふるさとへの愛着が高めることができるような「人づくり」事業の組み立てが必要となっています。</li> </ul>						
<b>今後の方向性(具体策)</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校等の参画を募るため、各高校等に対して事業の重要性の説明の強化を図ります。</li> <li>・ポスターやチラシ、広報等の活用に加え、青少年団体等にも呼びかけるなど、事業の更なる周知を図ります。</li> <li>・高校生等が参加意義を見つけることができるよう、高校生等の取組みへの支援を充実します。</li> </ul>						

事業名		学校 ESD 支援事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
支援を行った小・中・特別支援学校の数	目標値(校)	4	6	8	10	R5年度に小学校7校、中学校特別支援学校3校の支援を目指し、年2校ずつ増加
	実績値(校)	7				
	達成度(%)	175.0				
<b>事業の実施状況</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の大人が子供たちに絵手紙の素晴らしさを伝えるボランティア講座を実施し、子どもたちが描いた絵手紙を校区内の高齢者に届ける取組みを実施しました。【天の原小学校、玉川小学校、宮原中学校】</li> <li>・地域、学校が連携し種から花を育てることにより、地域の絆を深めました。【銀水小学校、田隈中学校】</li> <li>・小学校の海洋教育として実施されるカヌー乗船体験学習を支援しました。【駿馬小学校、天領小学校】</li> <li>・このほか、児童・生徒の学習活動の成果発表の場として、公民館のロビー等を活用し展示発表を実施しました。</li> </ul>						
<b>決算</b>		<b>国</b>	<b>県</b>	<b>起債</b>	<b>その他</b>	<b>一般財源</b>
決算額	16 千円					
(次年度への繰越	千円)					16
<b>課題</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館の機能や役割について、学校への周知が十分ではないため、提供できる支援について周知を図る必要があります。</li> <li>・同一内容の事業を複数の学校で実施しているため、新たな分野での取組みが必要です。</li> </ul>						
<b>今後の方向性(具体策)</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のニーズを把握するため、モデル事業を実施し、学校が取り組むESDについて理解を深めます。</li> <li>・学校に提供できる支援を明確にするため、公民館ができることをメニューにして提示するなど、わかりやすい仕組みを構築します。</li> </ul>						

# 評価・検証シート【施策】

令和 2 年度

【所管部局】市民協働部

施策名	(第1編第5章) スポーツを通して生きがいに満ち、活気にあふれるまち
-----	---------------------------------------

## 1. 計画(Plan)

意図(どういう状態になることを狙っているのか)
誰もが、ライフステージに応じてスポーツに親しみ、楽しむことで、生涯にわたり心身ともに健康で、活気にあふれた生きがいある生活を営むことができるまちを目指します。

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
1年間のうち、週1回以上の運動・スポーツの実施率	目標値 (%)	50.0	50.0	50.0	R5年度の目標値は、新スポーツ推進計画の中で設定	市スポーツ振興計画に掲げる目標値を基に設定。 [現状値:41.6% (H30年度実績)]
	実績値 (%)	38.5				
	達成度 (%)	77.0				

## 2. 実行(Do) → 構成事業の実施による

## 3. 検証・評価と今後の方向性(Check & Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析(①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)
<ul style="list-style-type: none"> <li>本市のスポーツ振興計画では、「誰もがどこでも気軽に親しめるスポーツ活動の機会づくり」、「活気あるスポーツ活動を支える仕組みづくり」、「スポーツがしやすい環境づくり」の3つの基本施策のもと、各種事業を実施しています。</li> <li>事業実施に当っては、スポーツ都市宣言推進協議会、体育協会、スポーツ推進委員協議会等と連携し、コロナ禍の中でも、感染防止策を十分に講じた上で各種スポーツ行事を開催するなど、可能な範囲で各種スポーツ活動の機会を提供しました。</li> <li>成果指標については、38.5%と、前年度と比較して7.8ポイント減となっており、本市のスポーツ振興計画に掲げる目標値を達成することができませんでした。</li> <li>減少した要因は、新型コロナの影響による外出等の自粛、また2度にわたる緊急事態宣言により施設利用や対外試合等が制限された時期があった等により、スポーツ・運動の機会が減少したことが考えられます。</li> <li>引き続き目標達成に向けて、日頃からスポーツや運動をやっていない人への情報提供や実施に向けたアプローチが必要と考えます。</li> </ul>
(2) 今後の方向性((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた方針を示す)
<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ・運動を普段していない人に向けて、スポーツ・運動の持つ効果を発信することにより、関心を持ってもらい、スポーツに気軽に参加できるような機会づくりに取り組みます。</li> <li>市民の誰もがどこでも生涯にわたり、スポーツに親しみ健康で明るい生活を送るためには、さまざまな市民団体等との連携が必要であり、また、幅広い市民の方がスポーツに触れることができるよう、さまざまな機会を捉え、各種事業のタイムリーな情報提供を行い、参加者の増を図ります。</li> <li>東京2020オリンピック・パラリンピックがR3年度に延期されたことを受け、引き続き、ホストタウン・交流事業などを通して、市民にスポーツの魅力を発信し、スポーツ振興、地域活性化に向けた諸事業を推進します。</li> <li>特にコロナ禍における感染防止の観点から、リモートやオンライン等を活用します。</li> <li>(仮称)総合体育館に求められる構造、設備、機能等に関する検討結果をまとめた「(仮称)大牟田市総合体育館新築工事に伴う基本設計」に基づき、R3年度に実施設計と工事施工を一括して行うデザインビルド(DB)事業者の選定を行い、事業を推進します。</li> </ul>
(市民協働部長 中島 敏信)



#### 4. 施策推進の視点と各構成事業

No.	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	R2 目標 R2 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点 1] 気軽に親しめるスポーツ活動の機会づくり							
1	市民スポーツ推進事業	スポーツ推進室	人口に占める市民スポーツ教室・大会等への参加率	%	3.80 0.23	遅れ	継続
2	地域スポーツ活動推進事業	スポーツ推進室	スポーツ推進委員が企画・運営等支援する地域スポーツ行事数	件	76 29	遅れ	改善
3	(再掲)子どもの体力向上事業	スポーツ推進室	半年後に運動・スポーツを週1回以上継続して実施している子どもの割合	%	100 -	遅れ	継続
[視点 2] スポーツ活動を支える仕組みづくり							
4	地域スポーツクラブ育成・支援事業	スポーツ推進室	総合型地域スポーツクラブ設置数	箇所	2 1	遅れ	改善
5	スポーツ団体との連携によるスポーツ活動支援事業	スポーツ推進室	チャレンジデー参加率	%	70.0 -	遅れ	継続
6	競技スポーツ振興・支援事業	スポーツ推進室	県民体育大会の順位	位	5 -	遅れ	継続
7	東京 2020 オリンピック・パラリンピック関連事業	スポーツ推進室	ホストタウン交流事業実施件数	件	2 2	順調	継続
[視点 3] スポーツがしやすい環境づくり							
8	スポーツ施設整備事業	スポーツ推進室	当該年度の施設改修等予定実施率	%	100 100	順調	継続
9	【重点】(仮称)総合体育館整備事業	スポーツ推進室	進捗管理	段階	1 1	順調	継続
10	指導者育成事業	スポーツ推進室	研修会参加者数	人	200 28	遅れ	継続

# 評価・検証シート【事業】

## 5. 構成事業

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

1	事業名	市民スポーツ推進事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者の必須事業として、初心者を対象としたスポーツ教室や大会等を開催し、スポーツ・運動実施の機会を提供しました。</li> <li>新型コロナ感染拡大防止のため、市民スポーツ大会・サマースポーツ教室・市民スポーツ大会の一部又は全部が中止となりました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナの影響により大半が中止となりましたが、例年、参加者数は減少傾向にあります。</li> <li>コロナ禍における事業実施の方法も工夫する必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、指定管理者と連携して、スポーツの魅力や効果などを積極的に情報発信していき、スポーツに親しみ、楽しむきっかけづくりとなる機会を提供します。</li> </ul>		

2	事業名	地域スポーツ活動推進事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域におけるスポーツ行事等では、各校区のスポーツ推進委員が主体となり、各校区で企画・運営等を行っていますが、新型コロナ感染拡大防止のため事業数が減少しました。</li> <li>地域元気アップスポーツ事業も新型コロナ感染拡大防止のため中止としました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域役員の高齢化に伴うスポーツ行事の減少が懸念されます。</li> <li>スポーツ推進委員も高齢化しており、若返り・世代交代が必要であるとともに、定数を満たしていないことから委員の確保が必要です。</li> <li>コロナ禍における地域スポーツ行事の在り方について工夫する必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ推進委員が主体となったスポーツ行事等の運営支援に取り組みます。</li> <li>オンライン等を活用したスポーツ推進委員向けの研修事業の検討を行います。</li> <li>スポーツ推進委員確保のため、地域への働きかけを行います。</li> </ul>		

3	事業名	子どもの体力向上事業【再掲：同編第4章 視点1参照】		
---	-----	----------------------------	--	--

4	事業名	地域スポーツクラブ育成・支援事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市唯一の総合型地域スポーツクラブ「右京ふれあい健康クラブ」は、卓球・バドミントン等毎週の活動をはじめ、ふれあい体育祭など地域に密着した事業を行っていますが、新型コロナ感染拡大防止のため大半の事業が中止になりました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>右京ふれあい健康クラブの安定した運営を支援していく必要があります。</li> <li>右京以外での地域・校区でも広げるために、総合型地域スポーツクラブの魅力を発信していく必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、右京ふれあい健康クラブの運営支援を行い、クラブの活性化と会員拡充を図ります。</li> <li>他の地域・校区でも設立の機運が高まるよう情報提供等を行います。</li> </ul>		

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

5	事業名	スポーツ団体との連携によるスポーツ活動支援事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ都市宣言推進協議会と連携し、スポーツ市民の祭典を実施しました。</li> <li>・チャレンジデーは新型コロナ感染拡大防止のため中止となりました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係者が多数に及ぶことから、コロナ禍において、リモート等の新たな手法等、実施方法を工夫する必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きスポーツ都市宣言推進協議会と連携し、活動を支援します。</li> </ul>		

6	事業名	競技スポーツ振興・支援事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域スポーツ大会(通年)への支援を行いました。</li> <li>・広域スポーツ大会(一部)、全九州都市陸上競技大会、福岡県民体育大会(夏季、秋季、冬季)は新型コロナ感染拡大防止のため中止となりました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での大会運営の支援、大会時の感染対策等を競技団体に徹底させる必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全九州都市陸上競技大会及び広域スポーツ大会は、市外から広く参加があり、スポーツ振興とともに地域活性化にもつながることから、新型コロナ対策も含め継続して支援します。</li> <li>・県民体育大会(秋季)は5位以内を目標に選手層の充実に努めます。</li> </ul>		

7	事業名	東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業	決算額	2,020
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京2020オリンピック、パラリンピックが新型コロナの影響によるR3年度への延期を受け、聖火リレー(R3.5)及び事前キャンプ受入れ(R3.7~8)に向けた準備・調整等を行いました。</li> <li>・新たにアフガニスタンがホストタウンの相手国として追加されました。</li> <li>・ホストタウンであるジョージアの情報発信等を行いました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聖火リレーに向けては、コロナ禍において安心・安全な実施が求められます。</li> <li>・事前キャンプ・交流事業については、①新型コロナ対策の徹底 ②受入・サポート体制の構築 ③相手国との緊密なコミュニケーションが不可欠です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前キャンプ受入に関しては、今後国内開催の世界大会等の際にも継続して本市を事前キャンプで訪れてもらえるよう、上記の課題に取り組む必要があります。</li> <li>・コロナ禍における聖火リレーの安心安全な運営を図りましたが、当日(R3.5.11)は公道での実施が中止となりました。</li> </ul>		

8	事業名	スポーツ施設整備事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諏訪公園テニスコート照明LED化改修工事、御大典記念グラウンドの第2種公認陸上競技場の今後5年間の公認を受けるための更新工事、同グラウンドの写真判定装置の更新を行いました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総じて施設が老朽化しており、計画的な維持補修に加え、緊急に補修を要する事案が増加傾向にあり、配分された予算だけでは対応が困難となっています。</li> <li>・新型コロナの対策も必要となっています。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の安全と、各種大会運営に支障が出ないよう、適切な補修・整備を行っていく必要があります。</li> <li>・国・県はじめ、スポーツ振興くじ等の財源も活用しながら進めます。</li> <li>・新型コロナ感染拡大防止のため、トイレ改修等の整備を行います。</li> </ul>		

9	事業名	【重点】(仮称)総合体育館整備事業<<6. 重点事業参照>>
---	-----	--------------------------------

10	事業名	指導者育成事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進委員の資質向上を図るため、県等が行う研修会に本市委員を派遣しました。</li> <li>・スポーツ少年団の指導者を対象に医科学研修会を実施しましたが、指導者研修会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における事業の実施方法(リモート等)について工夫・検討が必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者の資質向上は、青少年の育成とスポーツ振興に寄与することから、継続して取り組みます。</li> </ul>		

# 評価・検証シート【事業】

## 6. 重点事業

事業名		(仮称)総合体育館整備事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
進捗管理 1 段階：基本設計策定 2 段階：DB 事業者選定 3 段階：実施設計 4 段階：建設工事	目標値 (-)	1 段階	2 段階 3 段階	4 段階	4 段階	R5 年度の総合体育館完成を目指し、必要な事務作業を実施します。
	実績値 (-)	1 段階				
	達成度 (%)	100				
事業の実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> <li>「(仮称)大牟田市総合体育館新築工事に伴う基本設計」を策定し、R3 年度当初の設計・施工事業者選定公募型プロポーザルの公募に向けて審査委員会を実施しました。</li> </ul>						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	67,966 千円			1,900		66,066
(次年度への繰越		千円)				
課題						
<ul style="list-style-type: none"> <li>R3 年度中に実施設計に着手するため、公募型プロポーザルの着実な実施が必要です。</li> <li>体育館の建設について地元説明会の実施、建築基準法第 48 条特例許可の取得が必要です。</li> <li>体育館の運営管理について基本的な方針を定め、R6 年度の供用開始に向けた取組みが必要です。</li> </ul>						
今後の方向性(具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>R4 年度に工事着手するため、R3 年度前期に事業者を選定し、R3 年度後期に実施設計を行います。</li> <li>DB 事業者選定後に地元説明会を実施し、建築審査会の同意を得て建築基準法第 48 条許可申請を行います。</li> <li>体育館の運営管理等について、庁内・関係者団体等と協議を進めます。</li> </ul>						



# 評価・検証シート【施策】

令和 2 年度

【所管部局】市民協働部、企画総務部

施策名	(第1編第6章) 文化芸術に親しみ、心豊かに生活できるまち
-----	----------------------------------

## 1. 計画(Plan)

意図(どういう状態になることを狙っているのか)
郷土の歴史や遺産を大切に継承・活用し、郷土を愛する気持ちと誇りをはぐくむとともに、市民が文化芸術を通して心豊かで充実した生活を送ることができる文化の薫るまちを目指します。

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
1年間に、ホールや施設などで文化芸術を直接鑑賞したことがある人の割合	目標値 (%)	80.0	80.0	80.0	80.0	文化庁「文化芸術推進基本計画」に掲げる目標値を基に設定(R2年80.0%)。 [現状値:57.9%(H30年度実績)]
	実績値 (%)	44.5				
	達成度 (%)	55.6				

## 2. 実行(Do) → 構成事業の実施による

## 3. 検証・評価と今後の方向性(Check & Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析(①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民文化のつどいとして年間で19の事業を予定していましたが、新型コロナの影響により、15事業が中止となりました。また、文化芸術が生み出すまちの魅力アップ事業については、平田オリザ氏による教職員を対象とした講演会と羽山台小学校演劇ワークショップのみの縮小開催となり、市民を対象としたワークショップ等は中止となりました。このように、新型コロナの影響で各種イベント等が中止・延期となり、文化芸術活動への参加の機会が減少したことが、指標の実績値に影響した可能性があります。</li> <li>市民参加を促進するため、広報おおむたやホームページ、愛情ねっと等を活用するとともに、チラシやポスターを公共施設に配布するなどし、幅広く文化事業の開催等の周知を行いました。また、本市の特色を活かした文化芸術事業として、福岡県立美術館が所蔵する名品や大牟田市ゆかりの画家の作品を多数展示したイベント等を実施し、本市の魅力を生かして発信しました。</li> <li>新型コロナ感染拡大防止の観点から、近代化遺産一斉公開(炭鉱の祭典)などのイベント等の開催を縮小・中止しました。しかし感染防止対策を行いながら、郷土の歴史への興味関心を高める事業として、バス見学会や出前講座など文化財に関する講座を実施したことで、郷土を愛する気持ちと誇りを育みました。</li> </ul>
(2) 今後の方向性((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた方針を示す)
<ul style="list-style-type: none"> <li>R元年度に策定した大牟田市文化芸術振興プランに基づき、「文化芸術に親しみ心豊かに生活できるまち」を大きな目標としてさまざまな施策に取り組みます。特に本計画期間にあつては、次世代を担う人づくりに力を入れ、文化芸術を通じた子どもや若者の育成を図る施策を推進します。</li> <li>長引くコロナ禍においても文化イベント等が実施できるよう、文化芸術団体や大牟田市文化振興財団等と連携し、市民が文化芸術に直接触れる機会の充実を図ります。 (市民協働部長 中島 敏信)</li> <li>世界遺産をはじめとする近代化遺産や文化財の保存・活用により、多くの市民がまちの歴史や文化に対する理解を深め、それがまちへの愛着と誇りにつながるよう取り組みます。また、オンラインや映像等を活用することで世界遺産の価値を広く内外に周知し、その魅力に触れてもらえるよう取り組みます。 (企画総務部長 岡田 和彦)</li> </ul>

#### 4. 施策推進の視点と各構成事業

No.	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	R2 目標 R2 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点 1] まちの歴史や文化を知る・学ぶ							
1	世界遺産保存・整備事業	世界遺産・文化財室	「保存・公開・活用の計画」の進捗率 (計画予算ベース)	%	6.2 6.2	順調	継続
2	世界遺産理解促進事業	世界遺産・文化財室	世界遺産価値の理解度 (市民アンケート)	%	45.0 80.8	順調	継続
3	【重点】近代化産業遺産保存活用事業	世界遺産・文化財室、総合政策課	三川坑跡の来場者数	人	14,000 7,815	遅れ	継続
[視点 2] 文化芸術事業の充実							
4	多様な文化芸術提供事業	生涯学習課	大牟田市民文化のつどい参加者数	人	14,000 1,463	遅れ	改善
5	【重点】文化芸術体験を通じた子ども・若者育成事業	生涯学習課	大牟田への愛着が以前より深まった参加者の割合	%	80.0 —	遅れ	継続
[視点 3] 文化芸術の環境づくり							
6	市民(民間)団体等による文化芸術活動支援事業	生涯学習課	共催・後援数	件	96 34	遅れ	継続
7	文化芸術が生み出すまちの魅力アップ事業	生涯学習課	課題を解決するためには他者を尊重したり支えあうことが重要だと理解した参加者の割合	%	90.0 —	遅れ	継続
8	文化芸術による交流創出事業	生涯学習課	文化芸術による交流事業を通して他者を受け入れる気持ちが高まった参加者の割合	%	80.0 —	遅れ	継続
9	文化施設整備事業	生涯学習課	当該年度に予定していた施設修繕の実施率	%	100 100	順調	継続

# 評価・検証シート【事業】

## 5. 構成事業

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

1	事業名	世界遺産保存・整備事業	決算額	31,438
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産である三池炭鉱跡（宮原坑、三池炭鉱専用鉄道敷跡）について、内閣官房はじめ「明治日本の産業革命遺産」世界遺産協議会、福岡県等と連携を図りながら、適切に保存しました。</li> <li>定期的な除草清掃や柵等工作物の修繕など資産を適切に管理しました。</li> <li>宮原坑第二巻揚機室耐震化工事の実施設計を作成しました。</li> <li>三池炭鉱跡の保存・公開・活用に関する計画に基づき、鉄道敷跡の測量調査を実施しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>専用鉄道敷跡において、令和2年7月豪雨災害による被害が発生したため、整備計画の進捗に遅れが生じました。今後は災害の教訓をもとに防災の観点を含めた整備計画の見直しを検討する必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界遺産の日常の保全・管理については、民間活力の活用も含めて検討します。</li> <li>計画に基づく整備については、防災の観点から一部を見直します。</li> <li>複数年先を見込みながら、国や県等の補助事業を活用し有利な財源の確保を確実に進めます。</li> </ul>		

2	事業名	世界遺産理解促進事業	決算額	2,059
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界遺産施設の市民の意識高揚と理解促進を目的とした啓発・PR（インタープリテーションの充実）として下記の事業を実施しました。しかし新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベント等一部実施を見送った事業もありました。</li> <li>○大牟田市近代化産業遺産を活用したまちづくり協議会活動</li> <li>○ホームページの充実・更新      ○パンフレット作成</li> <li>○小学生バス見学会の実施      ○出前講座等実施</li> <li>○福岡県連絡会議事業の充実      ○世界遺産学習による学校連携事業の企画、実施</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を取りながら、大規模な集客を見込む事業を見直し、オンラインや映像等を活用した事業の組み立てを検討していく必要があります。</li> </ul>		
今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底しつつ、オンラインや映像等を使って、世界遺産が理解できる事業に取り組みます。また、世界遺産に実際に触れる体験も必要と考え、少人数でも実施できる体験・見学ツアー等を工夫しながら進めます。</li> </ul>			

3	事業名	【重点】近代化産業遺産保存活用事業 ‹‹6. 重点事業 参照››		
---	-----	----------------------------------	--	--

4	事業名	多様な文化芸術提供事業	決算額	308
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡県立美術館が所蔵する名品や大牟田市ゆかりの画家の作品を大牟田文化会館に展示し、中高生を中心とした幅広い年齢層の方に、質の高い文化芸術に触れる機会を提供しました。</li> <li>上記以外にも、市民栄誉賞を授賞した萩尾望都さんの企画展や内田麟太郎さんをはじめとした作家を招いての講演会（日本児童文学セミナーとの連携事業）等、絵本やマンガをテーマにした本市の特色を活かした文化芸術事業を実施しました。</li> <li>大牟田市民文化のつどい事業をR2年度は19事業計画していましたが、新型コロナの影響により、4事業のみの実施となりました。（R元年度19事業実施）</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も新しい生活様式を踏まえたウィズコロナの視点での事業の組み立てが必要です。</li> <li>コロナ禍においても文化芸術団体が活動しやすくなるような支援が必要です。</li> </ul>		
今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術団体のニーズを把握し、コロナ禍においても活動しやすい環境づくりを進めます。</li> </ul>			

5	事業名	【重点】文化芸術体験を通した子ども・若者育成事業<<6. 重点事業参照>>
---	-----	---------------------------------------

6	事業名	市民(民間)団体等による文化芸術活動支援事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術に振興に資する事業に対し後援等(34件)を実施しましたが、新型コロナの影響により例年より大幅に減少しました。</li> <li>本市の文化芸術団体の連合体である大牟田文化連合会に対し、運営費補助を行いました。</li> <li>福岡県中学校文化連盟に対し、負担金を交付しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術団体の高齢化や会員減少への対応が必要です。</li> <li>長引くコロナ禍での活動継続への支援が必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術団体のニーズの把握に努め、文化芸術活動の継承を支援します。</li> <li>適切な後援等を実施し、文化芸術団体等の活動を支援します。</li> </ul>		

7	事業名	文化芸術が生み出すまちの魅力アップ事業	決算額	1,100
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師に劇作家の平田オリザ氏を招き、小学生や市民を対象に演劇の手法を活用して他者と協力したり、自分を表現できるコミュニケーション能力を育むほか、多様な価値観をもつ人との対話に必要なことについて理解を深める講演会やワークショップを計画していましたが、新型コロナの影響により、小学校内でのワークショップや教職員を対象とした講演会の実施のみとなりました。(市民を対象としたワークショップが実施できなかったため、アンケートは未実施。)</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達だけではなく、地域住民等大人に広げる取組みが必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>羽山台小学校における小学生を対象とした演劇ワークショップは継続して実施し、また、地域住民等大人を対象としたワークショップや講演会を実施して、自分たちのまちの魅力を知り、まちの文化の自己決定能力について理解する取組みを進めます。</li> </ul>		

8	事業名	文化芸術による交流創出事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>有明圏域定住自立圏共生ビジョンに基づき、従前より実施している有明美術展や圏域4市2町の担当者による共同文化事業を検討する文化振興会議を開催予定としていましたが、新型コロナの影響により開催を中止しました。</li> <li>オリンピック・パラリンピック開催に合わせ、多様性の理解を深める事業を計画していましたが、オリンピック・パラリンピックが延期されたため、実施できませんでした。(事業が実施できなかったため、アンケートは未実施。)</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域内の担当者との意見交換や情報を共有することで連携強化を図り、圏域内外にアピールする新たな共同文化事業の検討が必要です。</li> <li>多様性の理解を進めるための新たな取組みが必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術を通して圏域内外の交流の促進や多様性を認め合う社会の実現に資する事業を検討します。</li> </ul>		

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

	事業名	決算額	-	
9	文化施設整備事業			
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大牟田文化会館及びカルタックスおおむた両施設とも老朽化が進んでいることから維持補修に取り組みました。(文化会館：大ホール音響設備更新など、カルタックス：外壁改修など)</li> <li>・大牟田文化会館の舞台設備等の中長期的な更新計画を作成しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の長寿命化を図るためには、今後も計画的な予防保全が必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も両施設の適切な維持管理に取り組みます。</li> </ul>		



# 評価・検証シート【事業】

## 6. 重点事業

事業名		近代化産業遺産保存活用事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
三川坑跡の年間来場者数	目標値(人)	14,000	14,000	15,000	16,000	年間1,000人の増加を目標とします。[現状値:約13,000人(R元年度実績)]
	実績値(人)	7,815				
	達成度(%)	55.8				
<b>事業の実施状況</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>三川坑跡の整備について、管理棟2階改修工事を完了しました。</li> <li>三川坑跡において、新型コロナウイルスの感染拡大に配慮してイベントを実施したものの、公開日数105日(前年度128日)、公開日1日当たりの来場者数は74.4人(108.5人)となり、いずれも減少しました。</li> <li>民間団体である「三川坑に慰霊碑を建てる会」により、炭じん爆発犠牲者慰霊碑が建立されました。</li> <li>近代化遺産の価値を伝え、その啓発を行うため、例年11月に炭鉱(やま)の祭典を実施していますが、新型コロナウイルスの影響により、開催できませんでした。</li> </ul>						
<b>決算</b>		<b>国</b>	<b>県</b>	<b>起債</b>	<b>その他</b>	<b>一般財源</b>
決算額	6,541 千円					6,541
(次年度への繰越	38,700 千円)					
<b>課題</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの影響により、協働型のイベント開催が困難になっています。</li> <li>三川坑跡施設において、来場者が歴史的価値に触れる機会を増やすために、敷地内の炭鉱施設や展示室の場所を伝える案内板を整備する必要があります。</li> </ul>						
<b>今後の方向性(具体策)</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの感染状況等を注視しながら、対策を講じたイベントを行います。</li> <li>三川坑跡の建物改修をさらに進めることにより、安全に見学できるエリアを拡大します。加えて、炭鉱施設や展示室へ誘導する案内板を整備するとともに、展示室を充実させます。</li> </ul>						

事業名		文化芸術体験を通した子ども・若者育成事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
大牟田への愛着が以前より深まった参加者の割合	目標値(%)	80.0	80.0	80.0	80.0	「将来大牟田市に住みたいと思うか」との問いに、「思う」と「わからない」の合計が約80%という若者へのアンケートの結果を参考に設定
	実績値(%)	—				
	達成度(%)	—				
<b>事業の実施状況</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>わくわくシティ基金を活用し、高校生が小中学生にダンスを教えるワークショップや市内高校ダンス部のステージ発表のほか、小学生から高校生を対象に市内外から参加者を募ったダンス大会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響によりR3年度に延期となりました。(事業延期のため、アンケートは未実施。)</li> <li>文化芸術活動者を学校へ派遣し、学校教育における文化芸術の鑑賞、体験等の機会を提供する事業を実施しましたが、新型コロナウイルスの影響により事業実施件数が5件にとどまり、前年度の14件から大幅に減少しました。</li> </ul>						
<b>決算</b>		<b>国</b>	<b>県</b>	<b>起債</b>	<b>その他</b>	<b>一般財源</b>
決算額	60 千円					60
(次年度への繰越	千円)					
<b>課題</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>ウィズコロナの視点でのダンスワークショップ等事業の実施方法の構築が課題です。</li> </ul>						
<b>今後の方向性(具体策)</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもや若者が安心して文化芸術活動に参加できるよう、文化芸術団体や文化振興財団と連携して感染防止対策を講じながら事業に取り組みます。</li> </ul>						

# 評価・検証シート【施策】

令和 2 年度

【所管部局】市民協働部、教育委員会

施策名	(第1編第7章) 一人ひとりの人権が尊重され、男女が生き生きと暮らすまち
-----	---

## 1. 計画(Plan)

意図(どういう状態になることを狙っているのか)
市民一人ひとりの人権が尊重され、互いに認め合える、あらゆる差別のない、男女が生き生きと暮らすことができるまちの実現を目指します。

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
人権が尊重されていると思う市民の割合	目標値 (%)	67.0	67.0	67.0	67.0	現状値を踏まえ67.0%以上を目指す。 [現状値:61.5%(H30年度実績)]
	実績値 (%)	68.3				
	達成度 (%)	101.9				
性別による固定的な役割分担意識に同感しない市民の割合	目標値 (%)	65.0	65.0	65.0	R5年度の目標値は、男女共同参画プランの中で設定	市第3次男女共同参画プランに掲げる目標値を基に設定。 [現状値:57.2%(H28年度実績)]
	実績値 (%)	64.3				
	達成度 (%)	98.9				

## 2. 実行(Do) → 構成事業の実施による

## 3. 検証・評価と今後の方向性(Check & Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析(①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)
<ul style="list-style-type: none"> <li>人権が尊重されていると思う市民の割合は、昨年度の61.0%から7.3ポイント上昇し68.3%となりました。人権・同和問題啓発推進事業では、人権フェスティバルをはじめとする各種啓発事業を実施し、人権擁護推進事業では、人権擁護委員が行う人権相談及び啓発活動へ支援等を行っているため、これらが指標の実績値に影響していると考えます。</li> <li>性別による固定的な役割分担意識に同感しない市民の割合は、昨年度の68.5%から4.2ポイント減少し64.3%となりましたが、目標値に対する達成度は98.9%でした。男女共同参画に関する意識啓発事業については、性別による固定的な役割分担意識の解消に向けて、いっそうの周知・啓発に取り組んでいく必要があります。</li> <li>近年は、人権侵害や男女共同参画に関する話題がマスコミ等を通じて注目を受けることもあります。このことは市民の意識に大きく影響し、指標達成にも一定の影響を及ぼす可能性がある一方で、これらの問題を考えていくことを通じて意識向上にもつながっていくものと考えます。</li> </ul>
(2) 今後の方向性((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた方針を示す)
<ul style="list-style-type: none"> <li>人権・同和問題啓発推進事業や人権擁護推進事業においては、これまで継続的な事業実施により指標達成に努めています。H28年度に施行された人権3法の周知・啓発に努めるとともに、R元年12月に改正施行した「大牟田市部落差別をはじめあらゆる差別の撤廃をめざす人権擁護条例」に基づき、あらゆる差別の解消をめざすため、市民一人ひとりの人権が大切にされる人権尊重のまちづくりをさらに進めます。また、新型コロナに関連した不当な差別、偏見、いじめ及び誹謗中傷が生じることがないように啓発に取り組みます。</li> <li>「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(H27年制定)及び「配偶者からの暴力防止及び被害者の保護等に関する法律」(H26年改正)を反映した第3次おおむた男女共同参画プランの推進を図ります。また、次期第4次おおむた男女共同参画プランの策定を進めます。 (市民協働部長 中島 敏信)</li> <li>人権・同和教育推進事業及び人権・同和教育連携事業においては、大牟田市人権・同和教育研究協議会(市同研)等の関係団体と連携を図りながら、人権問題に対する理解と認識を深める取組みを進めました。今後とも人権・同和教育諸事業を推進します。 (教育委員会事務局長 中村 珠美)</li> </ul>

#### 4. 施策推進の視点と各構成事業

No.	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	R2 目標 R2 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点 1] 人権に関する教育・啓発の推進							
1	【重点】人権・同和問題啓発推進事業	人権・同和・男女共同参画課	人権イベントにおいて初めて参加した人の割合	%	41.0 42.3	順調	継続
2	【重点】人権・同和教育推進事業	人権・同和教育課	人権尊重意識の醸成度	%	100 93.4	順調	継続
3	人権・同和教育連携事業	人権・同和教育課	市同研参加者の人権意識が向上した割合	%	100 100	順調	継続
[視点 2] 人権擁護の推進							
4	人権擁護推進事業	人権・同和・男女共同参画課	差別や偏見がないと思う市民の割合	%	40.0 38.5	順調	継続
[視点 3] 男女がともに生きる社会への意識づくり							
5	男女共同参画に関する意識啓発事業	人権・同和・男女共同参画課	社会全体の中で「男女の地位が平等である」と回答した市民の割合	%	40.0 12.6	遅れ	改善
6	女性に対する暴力防止及び被害者支援事業	人権・同和・男女共同参画課	DV 相談窓口の認知度	%	70.0 83.6	順調	継続
[視点 4] 男女がともに参画する機会の確保							
7	女性参画促進事業	人権・同和・男女共同参画課	審議会等委員への女性の登用率	%	42.0 32.7	やや遅れ	継続

# 評価・検証シート【事業】

## 5. 構成事業

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

1	事業名	【重点】人権・同和問題啓発推進事業<<6. 重点事業 参照>>
---	-----	---------------------------------

2	事業名	【重点】人権・同和教育推進事業<<6. 重点事業 参照>>
---	-----	-------------------------------

3	事業名	人権・同和教育連携事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権・同和教育研究実践交流会、課題別委員会「子ども就学支援」を実施しました。「おおむた子ども支援ガイドブック」は500冊を作成し、子どもの育ちや学び、家庭にかかわる支援者がより広く活用できるようにしました。また、人権連続講座については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業を開催するにあたり、開催テーマに対する理解や認識を深めてもらうためには、初めて参加する人の割合を増やすことが重要となるため、さらなる掘り起しが必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業を開催する際には、幅広い市民の参加が得られるように周知することが重要となります。このため、周知方法についてはFMたんとやSNS等を活用するほか、小・中・特別支援学校の校長会や民生委員・児童委員協議会等の各種団体に直接働きかけを行うなど、広く周知・啓発していきます。また、「おおむた子ども支援ガイドブック」についても、毎年度、各種支援制度の改正などに対応し、改訂版を発行します。</li> </ul>		

4	事業名	人権擁護推進事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権擁護委員や県の関係機関と連携し、12月の人権週間に、街頭啓発活動を実施しました。</li> <li>・人権擁護委員が実施する「人権なんでも相談」、「人権の花運動」を支援しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この事業の指標として、まちづくり市民アンケートにおいて、「差別や偏見がないと思う市民の割合」がR元年度の37.7%から0.8ポイント上昇しました。</li> <li>・「なんでも相談」での人権相談件数は減少傾向にあります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後とも、柳川人権擁護委員協議会や久留米人権啓発活動ネットワーク協議会、県の機関等とさらなる連携を図りながら、「なんでも相談」の開催を広く周知するなど、人権擁護の取組みを推進し、差別や偏見のない社会を目指します。</li> </ul>		

5	事業名	男女共同参画に関する意識啓発事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画に関する記事などを広報おおむたやホームページへ掲載するとともに、内閣府のポスター・チラシの設置やFMたんと等メディアを通して周知・啓発などに取り組みました。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、講演会等の開催ができなかったため、広報おおむたに特集記事を掲載しました。</li> <li>・大牟田地区の企業が集まる人権研修会等の機会を利用して啓発を行いました。</li> <li>・男女共同参画センター情報誌(3月発行)に、事業報告や男女共同参画に関する様々な記事を掲載しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指標実績値12.6%でR元年度16.2%から3.6ポイント減少しました。これは、コロナ禍のもと、雇用や生活面において、女性へ影響しているとの報道が、意識調査へ少なからず反映しているものと考えられます。まだまだ目標値に届いていないため、事業の推進状況を把握し、全庁的な調整を図るなど、プランに掲げる施策の計画的な実施が求められます。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報おおむた、ホームページへの掲載、公共施設等へのポスター・チラシの設置の他、SNSを活用するなど積極的に啓発を行います。</li> <li>・男女共同参画に関する知識や理解を深めるため、第3次プランの推進及び次期第4次プランの取組みの検討を行います。</li> </ul>		

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

事業名	女性に対する暴力防止及び被害者支援事業	決算額	—
6	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「女性に対する暴力をなくす運動」(内閣府：11月12日～25日)にあわせ、広報おおむた(11月1日号)にDV防止に関する記事を掲載、パープルツリーを市役所及び中央地区公民館に設置するなど、周知・啓発に取り組みました。また、大牟田市男女共同参画センター情報誌「レインボー」(R3年3月発行)に女性に対する暴力をなくす運動期間の取組みや相談窓口を掲載しました。</li> <li>・相談窓口や支援機関等について、広報おおむた、ホームページへの掲載、商業施設及び公共施設にDV情報カードやDV情報ポスターを設置するなど周知・啓発を行いました。</li> <li>・女性相談員の資質向上のため各種研修会へ派遣しました。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴う国のDV被害者への経済支援「特別定額給付金受給手続き」や相談対応を行いました。R2年度のDV相談件数は、110件でした。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DV相談者の相談は、子どもや高齢女性を含む複雑な事案が増えており、県、市などの関係機関との連携強化が必要です。</li> </ul>	
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の人権について理解を深めるため、広報おおむた、ホームページなどへの女性に対する暴力防止に関する記事の掲載、商業施設や公共施設などへ相談窓口のポスター・カードを設置するなど継続して周知・啓発に取り組みます。</li> <li>・関係機関等と連携し、相談窓口の周知を行うとともに、相談機能の充実を図り、被害者の態様に応じた支援や自立に向けた情報等の提供を行います。</li> </ul>	

事業名	女性参画促進事業	決算額	—
7	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の社会参画やワーク・ライフ・バランス等について、広報おおむたやホームページ、センター情報誌への掲載、公共施設等へのポスター・チラシの設置、SNSを活用するなど意識啓発を行いました。</li> <li>・女性のエンパワーメント(力をつけること)のため、県等の開催する研修会(オンライン開催)の情報や、各種講演会等学習機会の情報提供を行いました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止に至った事業もありました。</li> <li>・市民に「女性人材リスト」への登録募集を行うとともに、女性団体等へ人材の推薦を働きかけました。</li> <li>・各所管課の審議会等委員選任の際には、要綱に定めた登用条件の緩和など柔軟な運用をとおして、登用率向上に取り組みました。</li> <li>・女性人材リスト登録者は、新規登録者が1人で合計37名となり、その登録者から延23名の方が審議会委員へと登用されました。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審議会委員の登用では、人材リスト登録者の中から新たな審議会委員の選任につなげていく必要があるため、各所管課へ人材リストの活用を働きかけます。</li> </ul>	
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性人材リストへの登録者募集については、広報おおむた、ホームページへの掲載、公共施設へのポスター等の設置を行い、女性団体等へ人材の推薦を働きかけるなどあらゆる機会を捉え募集・啓発を行います。</li> <li>・各所管課の審議会等委員選任の際に「女性人材リスト」の活用及び団体へのさらなる女性推薦を依頼するよう働きかけます。</li> </ul>	



# 評価・検証シート【事業】

## 6. 重点事業

事業名		人権・同和問題啓発推進事業						
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠		
人権イベントにおいて初めて参加した人の割合	目標値(%)	41.0	41.0	41.0	41.0	人権フェスティバル初参加者の割合を、過去5年間の平均(40.7%)より、常に上回るようにします。		
	実績値(%)	42.3						
	達成度(%)	103.2						
事業の実施状況								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大牟田市人権・同和問題啓発推進協議会等との共催により、12月の人権週間に人権フェスティバルを開催しました。講師に女優のサヘル・ローズさんをお招きして「出会いこそ、生きる力」と題した講演会を実施し、参加者は350人(前年度200人)、そのうち初参加者の割合は42.3%(前年度20.8%)でした。</li> <li>・人権擁護委員や市内にある県の機関と連携し、7月の福岡県同和問題啓発強調月間と12月の人権週間において街頭啓発を行っていますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、7月の啓発は中止しました。</li> </ul>								
決算		国		県		起債	その他	一般財源
決算額 (次年度への繰越)		675 千円 千円)		274				401
課題								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権フェスティバルは、メインとなる講演者及び講演のテーマにより参加者の年齢層・参加人数に大きな変動が生じます。R2年度は、講師の知名度とともに講師の人権啓発活動が多くの方からの共感を呼んだこともあり、目標値を達成しましたが、今後も市民の人権・同和問題に対する理解と認識を深めるためのきっかけ作りとなるよう、新たに興味を持って初めて参加する方を増やすための取組みが必要です。</li> </ul>								
今後の方向性(具体策)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も市民の人権問題に対する理解と認識を深めるため、人権フェスティバルの開催日、開催時間、プログラム内容等に工夫を加え、取り組めます。</li> <li>・今後も人権擁護委員や関係機関等と連携し、人権・同和問題に関する啓発活動に取り組めます。</li> </ul>								

事業名		人権・同和教育推進事業						
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠		
人権尊重意識の醸成度	目標値(%)	100	100	100	100	諸事業の参加者アンケートで、開催テーマに対する理解及び認識が「深まった」「概ね深まった」と全ての人が回答することを目指します。		
	実績値(%)	93.4						
	達成度(%)	93.4						
事業の実施状況								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡県同和問題啓発強調月間(7月)にあわせて、人権・同和教育講演会を開催する予定にしていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。</li> <li>・11月27日に労働福祉会館にて人権学習会を開催(参加者57人)し、人権尊重意識の醸成度は93.6%でした。</li> </ul>								
決算		国		県		起債	その他	一般財源
決算額 (次年度への繰越)		221 千円 千円)		87				134
課題								
<p>人権学習会におけるアンケート結果では、若年層(10歳代~30歳代)の参加者の割合が10.6%と低い率になっています。このため、講演会等に若年層の参加者を増やすことが課題です。</p>								
今後の方向性(具体策)								
<p>諸事業を開催するにあたっては、開催テーマに対する理解や認識を深めてもらうとともに、若年層を含めた幅広い市民の参加が得られるように企画、周知することも重要です。このことから、周知方法についても、広報おむたやホームページ、FMたんとう、SNS等を活用し、広く周知、啓発します。</p>								